

平成30年度

登別の教育

登別市教育委員会

平成30年11月作成

目 次

登別市の概要

位置及び面積、市名の由来、登別市の沿革	1
登別市の市章、登別市の花・花木・木、登別市民憲章	2
国際観光レクリエーション都市宣言	2

教育行政

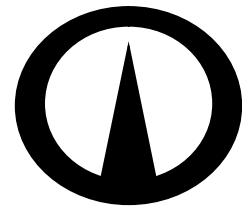
教育委員会	3
歴代教育委員	4
歴代教育委員長・歴代教育長	5
登別市の教育のあゆみ	6
小・中学校児童生徒数の推移	1 3
小・中学校の学校数・学級数等の推移	1 4
登別市立小・中学校	1 6
社会教育施設・図書館	2 9
学校給食センター	3 6
各種審議会委員等	3 8
のぼりべつの文化財	4 0
登別市小・中学校・高等学校統廃合校の沿革と校歌	5 2
室蘭常盤学校幌別分校（現幌別小学校）設立請願書	5 5

登別市の概要

位置及び面積	<p>登別市は、北海道の南西部に位置し、形状はほぼひし形をなしている。南は太平洋に面し、その海岸線はほぼ一直線である。東は登別漁港、クッタラ湖付近で白老町と接し、北はオロフレ峠、来馬岳付近で壮瞥町と接している。さらに、西は鷺別岬から鷺別岳にかけて室蘭市と伊達市に接している。</p> <p>東経 141度11分22秒 北緯 42度20分59秒</p> <p>姉妹都市 宮城県白石市（昭和58年10月）、 神奈川県海老名市（平成27年5月）</p> <p>交流都市 トライアングル宣言（平成23年4月） 宮城県白石市・神奈川県海老名市</p> <p>姉妹温泉 群馬県草津温泉（昭和47年6月）</p> <p>人口（平成30年4月末日現在） 48,556人（男 23,186人、女 25,370人）</p> <p>世帯数 24,906世帯</p>
市名の由来	<p>登別市の名前は、アイヌ語の「ヌプルベツ」（色の濃い川）に由来する。 （温泉から流れ出る川なので、水が暗く濁っていることから名付けられた。）</p>
登別市の沿革	<p>明治2年以降、仙台藩の白石城主一片倉小十郎邦憲が中心となって、76戸270人が開拓の鋤を入れ、登別の開拓が始まった。</p> <p>一方、登別温泉は存在していたものの、観光化は進展せず、厳しい自然と闘う開拓時代が続いた。幸いなことに、隣接する室蘭では鉄鋼産業が発展し、明治25年に夕張から石炭を運ぶ炭鉱鉄道が敷かれ、幌別、登別の停車場が開業し、街としての発展の基礎が出来た。こうして登別温泉も観光化が図られ、登別温泉と登別駅間に交通の便として客馬車、次いで軽便鉄道、電車が走り、昭和に入るとバスが走った。登別温泉は徐々に観光拠点として整備が進んでいったが、その他は急速な発展を見る事がなかった。</p> <p>だが、第2次世界大戦に入るや室蘭の鉄鋼産業は急速に活発化し、昭和17年、現在の富士町に日鉄社宅1,450戸が建設され、単なる温泉の街から新たな住宅の街へと飛躍する契機が生まれたのである。それは同時に本市が室蘭の工業と構造的な結びつきによって、後年室蘭に隣接する鷺別地区に住宅が増大し、両地区が将来的には完全に連担する要因となった。</p> <p>戦後、札内は、畑作から酪農へと転換していった。こうして、昭和26年幌別町として町制をしく街に発展し、更に昭和36年に登別町として町名を改正し、昭和45年には待望の市制が施行された。</p> <p>市制施行当時は、室蘭工業圏を支える住宅地として人口が急速な増加が見られ、教育施設をはじめ、生活環境や公共施設の整備が急務とされた時代であったが、現在登別市は、国際観光レクリエーション宣言の街として、美しい自然環境を守り、真に豊かで快適な「まちづくり」を目指し、道内有数の観光地として発展している。</p> <p>更にまちづくりのキャッチフレーズを「人が輝き、まちがときめく、ふれあい交流都市のぼりべつ」と掲げ、市民の思い描く夢を将来像として、登別ゆめまち構想に反映させた新しい総合計画を基に、まちづくりの理念の実現に向けた取り組みを進めている。</p>

登別市の市章

力強く伸びる市の将来を表現したもので、登別の頭文字「の」を単純かつ明瞭化し、円内左右の空間は市勢伸長の二大基盤である鉱業、観光の意義を含め、中心の長三角形は限りなく躍進する登別市の発展を希ったものである。



登別市の
花・花木・木

[登別の花]
キク

[登別の花木]
ツツジ

[登別の木]
プラタナス



登別市民憲章

わたしたちは 古い歴史と美しい自然に恵まれた登別の市民です
ここに わたしたちの心がまえを定めてよりよいまちをつくることに
努めます

- 1 心身をきたえよく働いて 活気あふれる豊かなまちをつくり
ましょう
- 2 親切をつくし きまりを守って 明るくすみよいまちをつくり
ましょう
- 3 自然を愛し 力をあわせて緑と空気と太陽のいっぱいある
きれいなまちをつくりましょう
- 4 未来をつくる青少年の 健全な夢の育つまちをつくりましょう
- 5 教養をつみ 視野を広げて 平和で文化のかおり高いまちを
つくりましょう

(一昭和43年9月20日制定一)

国際観光レク
リレーション
都市宣言

美しい自然と無限の温泉に恵まれた登別市は、北海道観光の宝です。
生活を楽しみ、心身を健やかに、明日への活力を求め、世界の人々
が相い集う街、理想郷登別市を目指して、ここに「国際観光レクリエ
ーション都市」を宣言します。 (一昭和61年3月24日決議一)

1 教 育 行 政

1 教育委員会



教 育 長

武 田 博

平成14年2月20日就任
平成28年10月23日から新教育長



委員（教育長職務代理者）

垣 内 登紀子

平成13年4月1日就任



委 員

森 口 達

平成17年9月29日就任



委 員

赤 井 秀 輝

平成24年10月7日就任



委 員

堅 田 裕

平成26年10月1日就任

2 歴代教育委員

氏 名	自	至	備 考
赤坂 準一	S27.10.1	S37.12.31	公選委員 (31.10.1 任命)
藤平 喜三郎	S27.10.1	S39.11.5	〃
花輪 高弘	S27.10.1	S31.9.30	公選委員
武安 良助	S27.10.1	S31.9.30	〃
平畠 文次郎	S27.10.1	S30.9.30	議会選出委員
麻生 外次郎	S30.10.1	S31.9.30	〃
上田 邦男	S31.10.1	S41.6.8	任命制による委員 (以下同じ)
勝間 久太郎	S31.10.1	S38.9.30	
中川原 豊	S31.10.1	S39.9.30	
浜本 武志	S38.4.1	S38.12.12	
若狭 徳兵衛	S38.11.12	S42.11.11	
柳沼 高杉	S39.4.5	S44.9.30	
筒井 敬祐	S39.10.1	S42.4.18	
宮崎 徳治	S38.11.12	S41.9.30	
中川原 豊	S41.6.9	S46.9.30	
国分 恒次	S41.10.1	S45.9.30	
高橋 利市	S42.5.10	S43.9.30	
内藤 秀吉	S42.11.15	S58.9.30	
須賀 武夫	S43.10.1	S63.9.30	
山下 文雄	S44.10.1	S53.6.23	
桜井 弘	S45.10.1	S53.9.30	
川島 芳信	S46.10.1	S55.9.30	
吉原 暲	S53.10.1	S61.9.30	
大笹 繁	S53.10.1	S56.9.30	
阿部 隆雄	S55.10.1	S59.9.30	
安田 麻夫	S56.10.1	S63.9.20	
中山 隆二郎	S58.10.1	H3.9.30	
大野 吉三郎	S59.10.1	H4.10.6	
堅田 勇	S61.10.1	H10.9.30	
岩倉 志子	S63.10.7	H5.9.30	
後藤 八良	S63.10.12	H12.10.12	
峰田 弘道	H3.10.1	H17.6.21	
細川 正昭	H4.10.7	H11.8.31	
中山 節子	H5.10.1	H13.3.31	
志賀 辰哉	H10.10.1	H14.10.24	
斉藤 亨	H11.9.25	H16.8.5	
青木 宏司	H12.10.23	H14.2.8	
垣内 登紀子	H13.4.1		
武田 博	H14.2.20	H28.10.22	
千葉 泰二	H14.12.18	H26.9.30	
松村 昌孝	H16.10.7	H24.10.6	
森口 達	H17.9.29		
赤井 秀輝	H24.10.7		
堅田 裕	H26.10.1		

3 歴代教育委員長

氏名	自	至	備考
赤坂 準一	S27.10.1	S28.9.30	
花輪 高弘	S28.10.1	S29.10.1	
武安 良助	S29.10.1	S30.10.1	
藤平 喜三郎	S30.10.1	S39.10.1	
上田 邦男	S39.10.1	S41.6.8	
中川原 豊	S41.6.9	S46.9.30	
内藤 秀吉	S46.10.1	S58.9.30	
須賀 武夫	S58.10.7	S63.9.30	
中山 隆二郎	S63.10.7	H3.9.30	
大野 吉三郎	H3.10.2	H4.10.6	
堅田 勇	H4.10.7	H10.9.30	
峰田 弘道	H10.10.6	H17.6.21	
松村 昌孝	H17.9.29	H24.10.6	
垣内 登紀子	H24.10.18	H28.10.22	

4 歴代教育長

氏名	自	至	備考
高田 忠雄	S27.11.10	S28.3.31	兼任
山本 有友	S28.4.1	S29.6.16	〃
小林 与助	S29.7.17	S30.2.28	〃
高田 忠雄	S30.3.1	S30.4.22	〃
後藤 四郎	S30.4.23	S30.9.7	事務取扱
高田 忠雄	S30.9.8	S32.3.31	職務代行
上田 邦男	S32.4.1	S34.4.16	専任(非常勤)
後藤 四郎	S34.4.17	S34.6.3	職務代行
上田 邦男	S34.6.4	S38.3.31	専任(非常勤)
浜本 武志	S38.4.1	S38.12.12	専任
上田 邦男	S38.12.13	S39.4.4	専任(非常勤)
柳沼 高杉	S39.4.22	S44.9.30	専任
山下 文雄	S44.10.1	S53.6.23	〃
大笹 繁	S53.9.25	S56.9.30	〃
安田 麻夫	S56.10.1	S63.9.20	〃
後藤 八良	S63.10.2	H12.10.1	〃
青木 宏司	H12.10.23	H14.2.8	〃
武田 博	H14.2.20		〃平成28年10月23日から新教育長

5 登別市の教育のあゆみ

- 明治 2年
8月 幌別・鷺別・登別の3郡を幌別郡と定める。
- 明治 4年
9月 幌別に共立教育所（郷学校・児童数28名）を開設し、読書科、算術科、習字科の三科を設けた。
- 明治 5年
学制交付
- 明治14年
6月 公立常盤小学校幌別分校（現幌別小学校）を創立する。《幌別分校開設に当たり開拓使あてに書かれた貴重な資料である請願書をP55に掲載》
- 明治15年
8月 公立常盤小学校鷺別分校（現鷺別小学校）を創立する。
10月 幌別分校が幌別小学校として独立し、それに伴い常盤小学校鷺別分校が幌別小学校鷺別分校に名称変更する。
- 明治19年
4月 幌別小学校鷺別分校が戸数減少で廃校となる。
- 明治21年
4月 ジョン・バチェラー氏が相愛学校（後の愛隣学校）を創設
- 明治23年
3月 幌別尋常小学校鷺別分校が再開される。
- 明治25年
8月 幌別尋常小学校登別分校を開設する。
- 明治28年
4月 登別分校が登別尋常小学校として独立する。
8月 登別温泉に説教所を設立し、寺小屋教育を開設する。
- 明治29年
5月 塵別尋常小学校富岸分校を開校する。
- 明治33年
4月 幌別、鷺別、登別の各校に補習科を設置する。
5月 幌別尋常小学校附属札内簡易教育所を開設する。
- 明治37年
5月 登別尋常小学校附属湯の滝教育所（温泉小）を開設する。
- 明治40年
3月 小学校令により尋常科6年、高等科2年と改正される。
5月 幌別尋常小学校附属鉦山教育所（鉦山小学校前身）を開設する。
- 大正 4年
4月 湯の滝簡易教育所を湯の滝尋常小学校と改称される。
- 大正 6年
4月 幌別尋常小学校に小学校令により高等科を併置する。
- 大正 7年
4月 鉦山小学校に補習科を併設する。
4月 湯の滝尋常小学校を登別温泉尋常小学校と改称する。
- 大正 9年
4月 登別尋常小学校に高等科を併置する。
- 大正12年
4月 登別温泉尋常小学校附属カルルス温泉特別教授場（カルルス温泉小学校前身）を開設する。

- 昭和 5年
4月 登別温泉尋常小学校に高等科を併置する。
- 昭和 9年
4月 幌別鉦山尋常小学校が補習科を廃止し、高等科を併置する。
- 昭和10年
4月 鷺別尋常小学校に高等科を併置する。
- 昭和16年
4月 小学校が国民学校として改称され、教育の戦時体制化が図られる。
- 昭和20年
1月 軍令により登別小学校（国民学校）の一部が兵舎となり、終戦まで続く。
- 昭和22年
1月 学校給食が希望校の求めに応じて開始される。
4月 学校教育法が制定され、6・3・3・4制となり国民学校が小学校と改称される。このときの登別の小学校は幌別、鷺別、富岸、幌別鉦山、札内、登別、登別温泉、カルルス温泉の8校であった。
5月 新学制により中学校を幌別、鷺別、登別に開設する。
7月 登別温泉中学校が開設され、この年に中学校4校を設立する。
- 昭和23年
10月 幌別中学校に室蘭栄高校定時制が併設される。
- 昭和24年
11月 幌別中学校札内分校が開校し、札内小学校に併設される。
- 昭和25年
7月 幌別小学校完全給食となる。
- 昭和26年
4月 町制施行（幌別町）する。
8月 幌別小学校来馬分校（現幌別西小学校）が設立認可される。
- 昭和27年
6月 幌別小学校来馬分校が幌別西小学校として独立改称する。
10月 教育委員会発足 教育委員の公選 が行われる。
- 昭和28年
4月 幌別鉦山中学校在幌別鉦山小学校に併設される。
11月 幌別西小学校が完全給食となる。
- 昭和29年
4月 札内中学校が独立し、札内小学校に併設される。
- 昭和30年
1月 幌別小学校が全焼し、10月全校舎（赤レンガ）を新築落成する。
- 昭和31年
6月 「地教行法」の公布により、教育委員の公選廃止。
10月 新教育委員（赤坂惇一氏、藤平喜三郎氏、上田邦男氏、勝間久太郎氏、中川原豊氏）が任命される。
- 昭和32年
10月 登別温泉小学校校舎（レンガ造）を新築落成する。
- 昭和33年
10月 鷺別小学校校舎（レンガ造）を新築落成する。
10月 カルルス温泉小学校を新築落成する。
- 昭和36年
4月 登別町（幌別町から）として町名改正する。

昭和38年

- 4月 町立登別高校を開設する。
- 4月 私立室蘭第2大谷高等学校（現登別大谷高校）が開校する。
- 9月 中央公民館を開館する。
- 12月 鷺別公民館を開館する。

昭和39年

- 4月 登別高校が道立に移管する。

昭和40年

- 4月 登別温泉小学校特殊学級として、厚生年金登別整形外科病院内に「ひかり学園（肢体不自由）」を開設する。
- 4月 札内小・中学校の校舎を落成する。

昭和41年

- 4月 幌別西小学校：特殊学級（知的障害）を設置する。
- 4月 登別温泉中学校：特殊学級として、厚生年金登別整形外科病院内に「ひかり学園（肢体不自由）」を開設する。
- 7月 登別の小・中学校初の学校プールが幌別西小学校に設置する。
- 12月 登別公民館を開館する。

昭和42年

- 1月 給食センターが開設され、町内小中学校が完全給食となる。
- 4月 幌別中学校：特殊学級（知的障害）を設置する。
- 4月 財団法人登別町育英会が設立される。

昭和43年

- 2月 鷺別小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
- 4月 鷺別小学校・鷺別中学校：特殊学級（知的障害）を設置する。
- 8月 町営陸上競技場を開設する。[3種公認、⇒S48年11月2種公認]

昭和44年

- 4月 登別温泉公民館を開館する。
- 5月 登別市青少年会館を開館する。（開道100年記念事業）

昭和45年

- 2月 登別中学校：北海道教育実践表彰受賞
- 4月 幌別東小学校を開校する。特殊学級（知的障害）を併設する。
- 8月 市制施行

昭和46年

- 2月 幌別鉾山小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
- 4月 若草小学校を開校する。

昭和47年

- 5月 市立図書館を開設する。

昭和49年

- 2月 幌別東小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
- 3月 幌別鉾山小中学校：閉校し、幌別西小学校・西陵中学校に統合する。
- 4月 西陵中学校を開校する。
- 4月 市内全域の町名地番変更（登別市〇〇町〇丁目〇番地〇）
- 10月 総合体育館を会館する。
- 11月 市民プールが完成する。

昭和50年

- 2月 市民プールを開館する。

昭和51年

- 4月 市立富士幼稚園を開園する。

昭和52年

- 4月 青葉小学校を開校する。
- 4月 市立若草幼稚園を開園する。

昭和53年

- 2月 幌別東小学校：北海道教育実践表彰・全国表彰「博報賞」受賞
- 4月 市立登別温泉幼稚園：開園する。
- 4月 富岸小学校：新築する。
- 4月 市民研修センターを開設する。(旧鉱山小・中学校施設を利用)
- 9月 登別中学校：文部省「生徒指導研究推進校」感謝状受賞

昭和54年

- 3月 若草小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
- 4月 富岸青少年会館を開館する。
- 4月 道立登別南高等学校が開校する。
- 11月 登別小学校：文部省指定北海道学校歯科保健活動の研究会を開催する。

昭和55年

- 4月 若草小学校：特殊学級（知的障害）を設置する。
- 9月 市営水泳プール（野外）を開設する。

昭和56年

- 1月 美園児童センターを開館する。
- 7月 幌別西小学校のPTA活動が北海道PTA連合会と日本PTA全国協議会より会長表彰受賞
- 9月 郷土資料館を開館する。

昭和57年

- 2月 札内小中学校：胆振管内教育実践表彰受賞
- 3月 カルルス温泉小学校が閉校し、登別温泉小学校に統合する。

昭和58年

- 4月 緑陽中学校を開校する。
- 6月 市民会館を開館する。

昭和59年

- 2月 登別温泉中学校：胆振管内教育実践表彰受賞
- 4月 幌別小学校に言語治療教室を開設する。
- 4月 西陵中学校に特殊学級（知的障害）を設置する。
- 4月 登別中学校を改築する。
(これにより、市内小・中学校が全て耐火構造となる)
- 10月 登別小、登別中、幌別中の三校が文部省指定「道徳教育共同推進校」として研究会を開催する。

昭和60年

- 5月 鷺別公民館を開館する。
- 10月 鷺別小学校に野外プールを開設する。

昭和62年

- 2月 登別温泉小学校：胆振管内教育実践表彰受賞

昭和63年

- 5月 幌別西小学校がベルマーク百万点を達成し、全国教育設備助成会より表彰される。

平成 元年

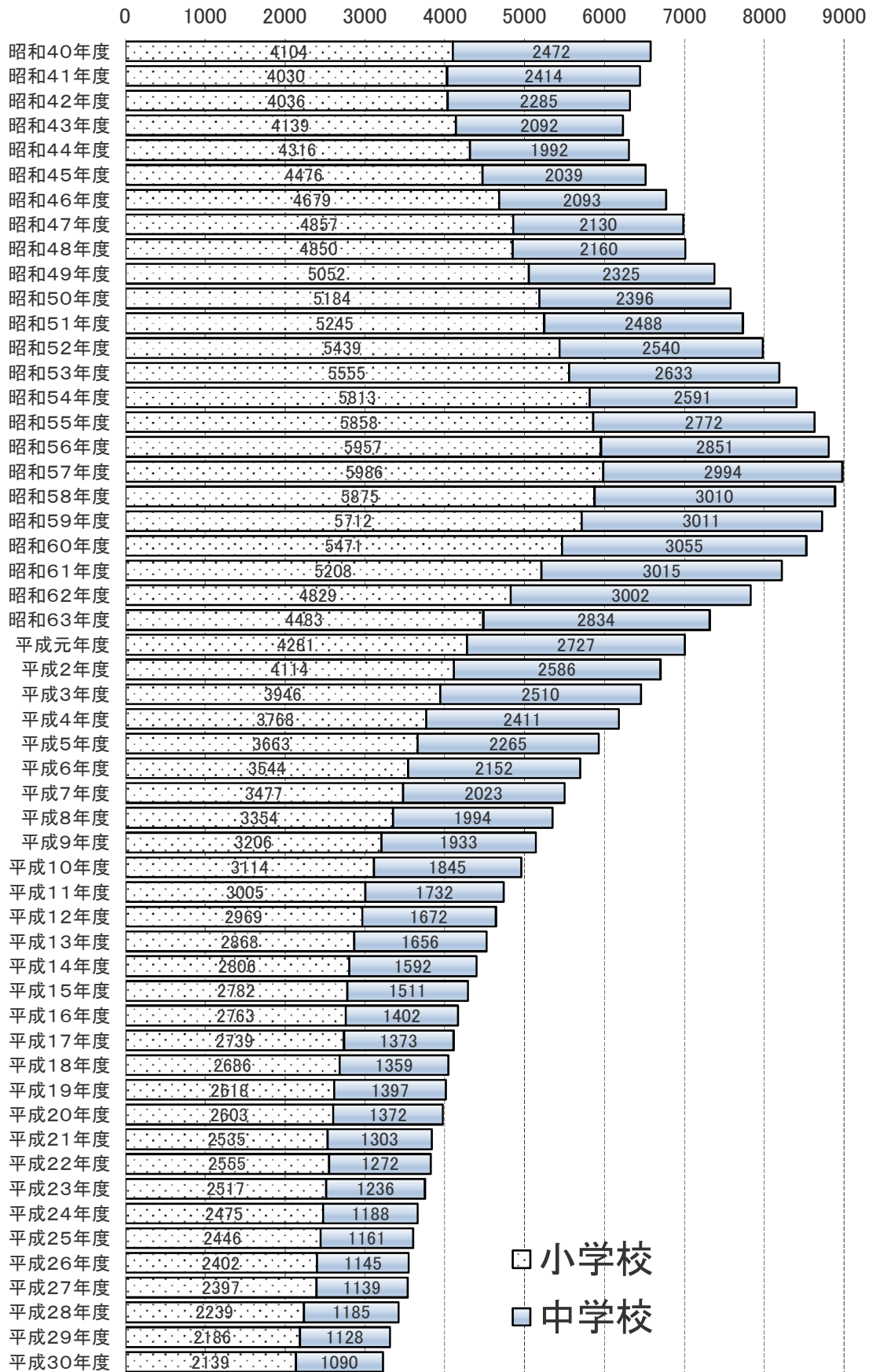
- 3月 青葉小学校が「長縄跳び90人」のギネスに挑戦し、185回を跳んで世界新記録を樹立する。
- 4月 教育委員会に生涯学習推進室を新設する。

- 平成 2年
- 8月 市立図書館を改修する。
 - 9月 登別小学校を改修する。
 - 9月 幌別東小学校・幌別中学校が文部省指定「道徳教育共同推進校」として研究会を開催する。
 - 10月 幌別中学校とデンマーク・ノーアエアスクールとの姉妹校友好を契る。
- 平成 3年
- 2月 幌別中学校：胆振管内教育実践表彰受賞
 - 6月 幌別西小学校：「オアシスルーム」を開設する。
 - 9月 若草小学校：「若草ドーム」を開設する。
 - 11月 登別中学校：校舎大規模改造工事3年度分が終了する。
- 平成 4年
- 4月 登別温泉中学校：北海道知事より「愛鳥モデル校」として指定を受ける。
 - 5月 富岸小学校：全日本花いっぱい連盟より表彰受賞
 - 10月 幌別中学校：「社会を明るくする運動」で法務大臣表彰受賞
 - 11月 登別中学校：校舎大規模改造工事4年度分が終了する。
 - 11月 登別中学校：「ミツワルーム」を開設する。（生徒用コンピュータ導入）
 - 11月 各中学校：コンピュータ2台ずつ設置する。
 - 12月 富岸小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
 - 12月 幌別小学校：校舎改築工事着工する。
- 平成 5年
- 6月 鶯別中学校と幌別中学校に生徒用コンピュータを導入する。
 - 11月 富岸小学校のPTA活動が北海道PTA連合会と日本PTA全国協議会より会長表彰受賞
 - 11月 登別中学校体育館の大規模工事が終了する。
- 平成 6年
- 3月 幌別小学校：改築工事が終了する。
 - 3月 青葉小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
 - 9月 幌別小学校：新校舎落成記念式典
 - 10月 西陵中学校：学校花壇全国表彰受賞
- 平成 7年
- 2月 幌別中学校：北海道教育実践表彰受賞
 - 10月 緑陽中学校：コンピュータ21台を設置する。
- 平成 8年
- 10月 幌別西小学校：文部省「調査統計功労者表彰」受賞
- 平成 9年
- 8月 若草小学校：三階に和室を設置する。
 - 9月 岡志別の森運動公園を開園する。
- 平成 10年
- 3月 若草小学校：若草ドームを閉鎖する。
 - 4月 札内小中学校：閉校し、幌別小学校・幌別中学校に統合する。
- 平成 11年
- 2月 登別小学校：コンピュータ室を新設する。
 - 3月 幌別小学校：北海道教育実践表彰受賞
 - 8月 青葉小学校：コンピュータ（14台）室を新設する。
 - 9月 鶯別小学校：コンピュータ室を新設する。
 - 11月 緑陽中学校：「壁新聞コンクール」で学校賞受賞
 - 11月 若草小学校：コンピュータ室を新設する。

- 平成12年
- 3月 西陵中学校：胆振管内教育実践表彰受賞
 - 11月 青葉小学校：I T光ケーブル・校内LAN完成
 - 12月 西陵中学校：大規模改修工事が終了する。
 - 12月 幌別東小学校：コンピュータールーム・準備室を設置する。
- 平成13年
- 2月 西陵中学校：北海道教育実践表彰受賞
 - 10月 幌中、幌小、東小のおやじの会が「胆振おやじの会サミット」を開催する。
 - 11月 登別小学校：光ファイバーケーブル敷設、校内LAN配線工事完成
- 平成14年
- 1月 若草小学校：光ファイバーケーブル敷設、校内LAN配線工事完成
 - 3月 登別小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
 - 4月 ネイチャーセンター「ふおれすと鉱山」を開館する。
 - 6月 登別中学校：登別漁港清掃活動で北海道漁港共同組合より全道表彰受賞
 - 10月 登別小学校：全日本学校歯科保健優良校として文部科学大臣表彰受賞
- 平成15年
- 10月 鷺別中学校：北海道「中学校の税に関する作文コンクール」で学校賞受賞
 - 11月 幌別小学校：文科省指定「国語力向上モデル事業」研究会を開催する。
 - 11月 幌別中学校「おやじの会」：日本PTA全国協議会・北海道PTA連合会より表彰される。
- 平成16年
- 3月 登別温泉中学校：閉校し、登別中学校に統合する。
 - 6月 市民プール「らくあ」新設(野外・学校プールが全面閉鎖される)
 - 10月 若草小学校：校舎大規模改修工事が終了する。
 - 11月 富岸小学校：文科省「学力向上フロンティアスクール」公開研究会開催
- 平成17年
- 3月 北海道登別高等学校・北海道登別南高校閉校
 - 4月 北海道青嶺高等学校が開校する。
 - 4月 鷺別小学校：文科省「子どもと親の相談員等活用調査研究事業」推進
 - 8月 鷺別小学校：学校前花壇が日本道路協会賞受賞
 - 11月 幌別小学校：文科省指定「伝え合う力を養う調査研究事業」公開研究会開催「国語・日本語」部門で博報賞受賞
- 平成18年
- 2月 富岸小学校：北海道教育実践表彰受賞 幌別東小学校：胆振教育実践表彰受賞
 - 4月 西陵中学校：文科省「キャリア教育実践校」指定
 - 10月 幌別小学校：文科省「伝え合う力を養う調査研究事業」公開研究会開催
- 平成19年
- 3月 登別温泉小学校が閉校し、登別小学校に統合する。
 - 4月 登別明日中等教育学校が開校する。
 - 4月 幌別西小学校：文科省「子どもと親の相談員等活用調査研究事業」推進
 - 6月 文化交流館「カント・レラ」を開館する(旧温泉中学校校舎を利用)
 - 10月 幌別中学校：「社会を明るくする運動」で北海道実施委員会の委員長表彰受賞
 - 11月 幌別小学校：文科省「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」公開研究会開催
 - 11月 登別小学校：文科省「コミュニティ・スクール推進事業」公開研究会開催
 - 11月 鷺別中学校：文科省「人間としてのあり方・生き方を考える教育」実践研究事業の公開研究会開催

- 平成20年
- 2月 幌別東小学校：北海道教育実践表彰受賞
 - 2月 登別中学校：サイパン中学生交流事業
 - 6月 洞爺湖サミットアメリカ合衆国歓迎式典に登別OMB（おにっこマーチングバンド）参加
 - 6月 鶯別小学校：放課後こども教室「ひなわしメート」を開設する。
- 平成21年
- 9月 新型インフルエンザが流行（学級閉鎖・臨時休校相次ぐ）
- 平成22年
- 2月 全小中学校に大型デジタルテレビを配置する。
 - 4月 市教委が文部科学省の「全国学力・学習状況調査の結果を活用した調査研究」の指定を受ける。
 - 10月 教育委員会点検・評価報告書（平成21年度版）作成し公表を行う。
- 平成23年
- 3月 東日本大震災が発生 大津波警報により多くの学校が避難所となる。姉妹都市白石市に、応援メッセージや義援金などの支援活動を行う。
 - 7月 幌別東小学校：放課後子ども教室「はまなすメート」を開設する。
- 平成24年
- 2月 全小学校でスキー授業実施（青葉小はスケート）
 - 11月 暴風雪による大停電のため市内小中学校臨時休校(最長4日間)
- 平成25年
- 4月 幌別小学校：道教委「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校
- 平成26年
- 2月 全小中学校でフッ化物洗口実施（中学校4校開始）
 - 4月 幌別中学校：道教委「土曜授業推進事業」実践再委託校
 - 4月 他12小・中学校：道教委「土曜授業推進事業」実践再委託協力校
 - 6月 市内全小・中学校でコミュニティ・スクールを開設する。
- 平成27年
- 3月 鶯別小学校：屋内運動場改築工事が終了する(全ての屋内運動場耐震化終了)。
 - 3月 幌別小学校：平成26年度胆振管内教育実践表彰受賞
 - 5月 幌別中学校：神奈川県海老名市立大谷中学校修学旅行による生徒間交流
 - 6月 登別市総合教育会議設置
 - 7月 鶯別小学校：校舎改築工事着工
 - 9月 登別小学校：平成27年度日本教育公務員弘済会教育研究実践奨励校指定校
 - 10月 登別小学校：北海道学校歯科保健優良校表彰優秀賞受賞
- 平成28年
- 1月 総合体育館：大規模改修工事が終了する。
 - 2月 登別市いじめ防止基本方針策定
 - 7月 登別市教育大綱策定
 - 12月 鶯別小学校：校舎改築工事が終了する。
- 平成29年
- 2月 青葉小学校：校舎耐震補強工事が終了する。
 - 4月 登別市重大事案対策委員会設置
- 平成30年
- 2月 登別中学校：校舎耐震補強工事が終了する。
 - 2月 登別小中一貫教育基本方針策定
 - 3月 鶯別小学校：外構工事が終了する。
 - 9月 鶯別小学校：新校舎落成記念式典
 - 9月 登別市立学校における働き方改革基本方針策定

小・中学校児童生徒数の推移



小学校
 中学校

小中学校の学校数・学級数等の推移(昭和40年～63年)

各年5月1日現在

区分 年次	学校数			学級数			教職員数			小学校			中学校			合計		
	小	中	計	小	中	計	小	中	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
昭和40年度	9	6	15	106	62	168	136	104	240	2,092	2,012	4,104	1,229	1,243	2,472	3,321	3,255	6,576
昭和41年度	9	6	15	104	60	164	140	103	243	2,078	1,952	4,030	1,215	1,199	2,414	3,293	3,151	6,444
昭和42年度	9	6	15	107	59	166	145	106	251	2,064	1,972	4,036	1,143	1,142	2,285	3,207	3,114	6,321
昭和43年度	9	6	15	115	57	172	153	107	260	2,112	2,027	4,139	1,055	1,037	2,092	3,167	3,064	6,231
昭和44年度	9	6	15	126	54	180	169	108	277	2,210	2,106	4,316	1,007	985	1,992	3,217	3,091	6,308
昭和45年度	10	6	16	131	57	188	187	113	300	2,315	2,161	4,476	1,005	1,034	2,039	3,320	3,195	6,515
昭和46年度	11	6	17	142	56	198	204	114	318	2,376	2,303	4,679	1,049	1,044	2,093	3,425	3,347	6,772
昭和47年度	11	6	17	144	61	205	210	121	331	2,503	2,354	4,857	1,095	1,035	2,130	3,598	3,389	6,987
昭和48年度	11	6	17	145	63	208	220	124	344	2,498	2,352	4,850	1,123	1,037	2,160	3,621	3,389	7,010
昭和49年度	10	6	16	145	64	209	217	135	352	2,636	2,416	5,052	1,179	1,146	2,325	3,815	3,562	7,377
昭和50年度	10	6	16	149	66	215	221	135	356	2,726	2,458	5,184	1,199	1,197	2,396	3,925	3,655	7,580
昭和51年度	11	7	18	150	68	218	205	137	342	2,693	2,552	5,245	1,266	1,222	2,488	3,959	3,774	7,733
昭和52年度	12	7	19	157	68	225	237	139	376	2,761	2,678	5,439	1,323	1,217	2,540	4,084	3,895	7,979
昭和53年度	12	7	19	159	69	228	232	141	373	2,809	2,746	5,555	1,381	1,252	2,633	4,190	3,998	8,188
昭和54年度	12	7	19	162	69	231	239	143	382	2,937	2,876	5,813	1,343	1,248	2,591	4,280	4,124	8,404
昭和55年度	12	7	19	165	73	238	247	150	397	2,989	2,869	5,858	1,441	1,331	2,772	4,430	4,200	8,630
昭和56年度	12	7	19	170	76	246	256	156	412	3,020	2,937	5,957	1,492	1,359	2,851	4,512	4,296	8,808
昭和57年度	11	7	18	168	79	247	256	159	415	3,055	2,931	5,986	1,549	1,445	2,994	4,604	4,376	8,980
昭和58年度	11	8	19	166	80	246	250	166	416	3,030	2,845	5,875	1,517	1,493	3,010	4,547	4,338	8,885
昭和59年度	11	8	19	159	80	239	244	165	409	2,970	2,742	5,712	1,494	1,517	3,011	4,464	4,259	8,723
昭和60年度	11	8	19	154	82	236	239	168	407	2,826	2,645	5,471	1,538	1,517	3,055	4,364	4,162	8,526
昭和61年度	11	8	19	152	80	232	230	167	397	2,671	2,537	5,208	1,555	1,460	3,015	4,226	3,997	8,223
昭和62年度	11	8	19	152	83	235	225	166	391	2,524	2,305	4,829	1,526	1,476	3,002	4,050	3,781	7,831
昭和63年度	11	8	19	147	75	222	222	164	386	2,310	2,173	4,483	1,450	1,384	2,834	3,760	3,557	7,317

小中学校の学校数・学級数等の推移(平成元年～30年)

各年5月1日現在

()内は特別支援学級児童生徒数及び学級数の内数

区分 年次	学校数			学級数			教職員数			小学校			中学校			合計		
	小	中	計	小	中	計	小	中	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成元年度	11	8	19	143	77	220	222	160	382	2,196	2,085	4,281	1,370	1,357	2,727	3,566	3,442	7,008
平成2年度	11	8	19	142	76	218	215	156	371	2,085	2,029	4,114	1,330	1,256	2,586	3,415	3,285	6,700
平成3年度	11	8	19	138	76	214	212	164	376	2,004	1,942	3,946	1,286	1,224	2,510	3,290	3,166	6,456
平成4年度	11	8	19	134	73	207	212	154	366	1,884	1,884	3,768	1,258	1,153	2,411	3,142	3,037	6,179
平成5年度	11	8	19	127	72	199	213	159	372	1,822	1,841	3,663	1,199	1,066	2,265	3,021	2,907	5,928
平成6年度	11	8	19	124	69	193	201	148	349	1,773	1,771	3,544	1,110	1,042	2,152	2,883	2,813	5,696
平成7年度	11	8	19	124	68	192	201	151	352	1,738	1,739	3,477	1,028	995	2,023	2,766	2,734	5,500
平成8年度	11	8	19	120	65	185	200	149	349	1,717	1,637	3,354	984	1,010	1,994	2,701	2,647	5,348
平成9年度	11	8	19	115	63	178	198	148	346	1,662	1,544	3,206	965	968	1,933	2,627	2,512	5,139
平成10年度	9	6	15	(5)	(4)	(9)	192	141	333	1,621	1,493	3,114	909	936	1,845	2,530	2,429	4,959
平成11年度	9	6	15	(4)	(4)	(8)	234	142	376	1,571	1,434	3,005	878	854	1,732	2,449	2,288	4,737
平成12年度	9	6	15	(7)	(4)	(11)	192	139	331	1,556	1,413	2,969	839	833	1,672	2,395	2,246	4,641
平成13年度	9	6	15	(8)	(5)	(13)	193	136	329	1,499	1,369	2,868	832	824	1,656	2,331	2,193	4,524
平成14年度	9	6	15	(8)	(5)	(13)	194	135	329	1,456	1,350	2,806	819	773	1,592	2,275	2,123	4,398
平成15年度	9	6	15	(12)	(5)	(17)	191	135	326	1,399	1,383	2,782	806	705	1,511	2,205	2,088	4,293
平成16年度	9	5	14	(12)	(7)	(19)	206	117	323	1,366	1,397	2,763	762	640	1,402	2,128	2,037	4,165
平成17年度	9	5	14	(16)	(6)	(22)	211	114	325	1,343	1,396	2,739	729	644	1,373	2,072	2,040	4,112
平成18年度	9	5	14	(17)	(7)	(24)	203	114	317	1,321	1,365	2,686	719	640	1,359	2,040	2,005	4,045
平成19年度	8	5	13	(19)	(9)	(28)	171	102	273	1,310	1,308	2,618	718	679	1,397	2,028	1,987	4,015
平成20年度	8	5	13	(18)	(10)	(28)	155	94	249	1,297	1,306	2,603	706	666	1,372	2,003	1,972	3,975
平成21年度	8	5	13	(17)	(9)	(26)	168	104	272	1,276	1,259	2,535	653	650	1,303	1,929	1,909	3,838
平成22年度	8	5	13	(17)	(9)	(26)	172	105	277	1,323	1,232	2,555	615	657	1,272	1,938	1,889	3,827
平成23年度	8	5	13	(16)	(9)	(25)	168	99	267	1,307	1,210	2,517	589	647	1,236	1,896	1,857	3,753
平成24年度	8	5	13	(15)	(8)	(23)	173	97	270	1,286	1,189	2,475	591	597	1,188	1,877	1,786	3,663
平成25年度	8	5	13	(15)	(9)	(24)	174	97	271	1,287	1,159	2,446	604	557	1,161	1,891	1,716	3,607
平成26年度	8	5	13	(15)	(10)	(25)	169	96	265	1,279	1,123	2,402	595	550	1,145	1,874	1,673	3,547
平成27年度	8	5	13	(19)	(10)	(29)	173	98	271	1,265	1,132	2,397	595	544	1,139	1,860	1,676	3,536
平成28年度	8	5	13	(21)	(11)	(32)	175	102	277	1,160	1,079	2,239	629	556	1,185	1,789	1,635	3,424
平成29年度	8	5	13	(22)	(11)	(33)	175	98	273	1,130	1,056	2,186	606	522	1,128	1,736	1,578	3,314
平成30年度	8	5	13	(20)	(11)	(31)	173	95	268	1,094	1,045	2,139	590	500	1,090	1,684	1,545	3,229

登別市立幌別小学校


		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・教材園での栽培活動 ・花の植替などのボランティア活動 ・外国人との交流を通じた国際理解教育 ・日常的なゴミの分別・リサイクル活動を通じた環境教育 ・ICT活用による情報活用力の向上 ・全校一斉に取り組む朝読書・朝学習 ・地域との交流「学校支援地域本部事業」 田植え、稲刈り、収穫祭、乗馬体験
創立年月日	明治14年6月14日	研究主題 確かな学力を育てる授業の創造 ～教師の授業力向上を目指して～ ・目標分析と評価 ・言語活動の工夫 ・ノート指導の系統性
所在地	登別市中央町6丁目19番地1	
電話・FAX	TEL 85-2521 Fax 85-2522	
校長名	成田 浩 司	
教頭名	平石 崇 広	
児童生徒数	255名	学 校 沿 革 の 略 歴 明治 14. 6 室蘭常盤小学校分校として創立 15. 10 幌別小学校と称し、独立開校する。 38. 4 登別小学校分離 大正 6. 4 高等科を併置、補習学校廃止 15. 7 幌別青年訓練所併設 昭和 6. 6 開校50周年記念式典 27. 7 幌別西小学校分離 30. 1 校舎焼失 (幌別西小、幌別中で間借り授業) 30. 11 校舎新築落成 校歌制定 45. 4 幌別東小学校分離 56. 10 開校100周年記念式典 59. 4 言語治療教室開設 平成 5. 12 新校舎改築工事完成 6. 9 新校舎落成記念式典 9. 2 胆振管内教育実践表彰受賞 10. 2 北海道教育実践論文全文掲載 11. 3 北海道教育実践表彰受賞 12. 4 特別支援学級開設 13. 9 開校120周年記念式典 14. 11 体育館屋根・壁全面改修 15. 4 読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰 17. 11 第36回博報賞「国語・日本語部門」授賞 23. 9 開校130周年記念児童集会 24. 4 道教委「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校 11 体育館耐震化工事完成 27. 3 平成26年度胆振管内教育実践表彰受賞 29. 2 平成28年度北海道教育実践表彰受賞 30. 1 平成29年度文部科学大臣優秀教職員表彰受賞
学級数	普通10 特別3 計13学級	
職員数	28名	
敷地面積	27,336m ²	
学校教育目標	21世紀をよりよく生きるため、豊かな人間性の育成を目指し、子ども一人一人の個性と豊かな能力を生かして、心身ともに健全な日本国民の育成にあたる。 ○すすんで学び よく考える子 ○互いに助け合い 思いやる子 ○丈夫な体で たくましく生き抜く子	
学校経営方針・今年度の重点	方針 ○教職員一人一人が経営参画意識を持ち、組織体として見通しを持った経営の推進 ○「確かな学力」や「豊かな心」、「健やかな体」を育む教育課程の編成・実施 ○外部・内部評価活動を生かした学校改善 ○教師の意識改革と実践的指導力を高める研修活動の推進 ○教育環境の整備、教育情報の収集や教材化、地域の人材活用や連携の推進 重点 1 組織に貢献できる人材育成 2 チームによる経営改善 3 学校力のさらなる向上 4 学力向上を図る学習指導の充実 5 情報のオープン化 6 迅速・正確・丁寧な指導と対応 7 地域連携の充実(土曜授業・コミュニティスクール) 8 幼保小中の連携	

登別市立幌別西小学校




創立年月日 昭和27年6月1日		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別少人数指導（算数科） ・西陵中学校区小中一貫教育推進事業（出前授業、教職員合同会議、生徒指導交流、他） ・コミュニティ・スクール推進事業 ・土曜授業の実施（全校体力測定、小中合同避難訓練、地域参観日、長縄跳び大会） ・明日中等教育学校英語サポート（全学年） ・学校力向上総合推進事業（授業研究等） ・放課後及び長期休業中の学習サポート ・ふれあい清掃（親子清掃）
所在地 登別市片倉町5丁目13番地		
電話・FAX Tel 85-2364 Fax 85-2025		
校長名 神谷博達		
教頭名 関東英政		
児童生徒数 310名		研究主題 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり ～児童が学びを実感できる学習活動の工夫を通して～
学級数 普通12 特別3 計15学級		
職員数 25名		学校沿革の略歴 昭和 26. 8 幌別小学校来馬分校として発足 27. 6 幌別西小学校として独立認可 33. 10 屋内体育館落成 37. 7 開校10周年記念式典 40. 11 プール完成 52. 4 通学区変更により青葉小学校が分離 54. 3 新校舎第1期工事完成 55. 3 新校舎第2期工事完成 56. 7 道P連会長表彰受賞、PTA全国協議会会長表彰受賞（11月） 57. 9 開校30周年記念式典 59. 2 屋内体育館改築工事完了 60. 8 三線校舎内部改築工事完了 62. 4 情緒障害児学級新設 63. 5 ベルマーク収集100万点を達成し表彰を受ける。 平成 3. 6 西小シンボル[イチイの木二世]移植 オアシスルーム完成 7. 11 道立研究所研究指定校公開研究会 8. 10 学校基本調査文部大臣表彰を受賞 11. 9 トイレ水洗化工事完了 13. 9 開校50周年記念式典 15. 10 防犯灯設置 18. 10 放課後児童クラブ開設 23. 11 開校60周年記念式典開催 24. 3 胆振管内パイロット校指定 24. 4 学校力向上に関する総合実践事業 近隣実践校指 26. 4 コミュニティ・スクール開始 28. 4 市小中一貫教育研究実践校（H29同） 30. 1 平成29年度北海道公立学校等教育論文「全文掲載」 30. 3 平成29年度胆振管内教育実践表彰 30. 4 学校力向上に関する総合実践事業 実践校指定 地域連携研修 主体校 耐震改修工事開始
敷地面積 35,544m ²		
学校教育目標	心豊かでたくましく生きぬく 実践力のある人間の育成 ○進んで勉強する子 ○やさしく思いやりのある子 ○くじけないでやりぬく子 ○進んで体力づくりをする子	
	子どもの総合的な学力形成を実現する学びの循環づくり～子どもの笑顔あふれる学校～ 方針 1. 保護者・地域と一体となり地域に根ざした教育活動の推進【地域との連携・協力体制の確立】 2. 「分かった」「できた」を実感し、楽しく学び合える学校【知徳体の総合的な学力形成】 3. 教職員が協働性を発揮し、互いに高められる学校【協働し切磋琢磨による職能意識の向上】 4. 教育環境に配慮した安全・安心な学校【安全性や教育効果の向上・気付き】 重点 1. 生命尊重や思いやり、豊かな心の育成 2. 基礎基本の定着と主体的・協働的な学び 3. 特色ある教育課程の充実 4. 健康増進と体力向上 5. 特別支援教育の充実 6. 基本的な生活習慣の定着 7. 防災、安全教育の充実 8. 共感的な児童理解に基づく生徒指導の充実	
学校経営方針・今年度の重点	子どもの総合的な学力形成を実現する学びの循環づくり～子どもの笑顔あふれる学校～ 方針 1. 保護者・地域と一体となり地域に根ざした教育活動の推進【地域との連携・協力体制の確立】 2. 「分かった」「できた」を実感し、楽しく学び合える学校【知徳体の総合的な学力形成】 3. 教職員が協働性を発揮し、互いに高められる学校【協働し切磋琢磨による職能意識の向上】 4. 教育環境に配慮した安全・安心な学校【安全性や教育効果の向上・気付き】 重点 1. 生命尊重や思いやり、豊かな心の育成 2. 基礎基本の定着と主体的・協働的な学び 3. 特色ある教育課程の充実 4. 健康増進と体力向上 5. 特別支援教育の充実 6. 基本的な生活習慣の定着 7. 防災、安全教育の充実 8. 共感的な児童理解に基づく生徒指導の充実	

登別市立鷺別小学校

		特色 ・伝統芸能「鷺別子ども獅子舞」の継承 ・ひなわしデー（地域・保護者の方の自由参観日）の実施（年2回） ある教育活動 ・朝学習「鷺チャレ」と放課後子ども学習塾による基礎・基本の確実な定着 ・朝読書、図書司書による読書活動の推進 ・「鷺別子ども見守りたい」による登校・下校の引率と安全指導
創立年月日	明治23年4月1日	研究主題 子供の实態に合わせた算数の授業づくりを目指して ・共に考えることが楽しい学びを通して ・日常生活に役立つ算数の授業づくりを通して
所在地	登別市鷺別町4丁目36番地21	
電話・FAX	TEL 86-7011 Fax 86-2817	
校長名	中村 完	
教頭名	川股 正揮	
児童生徒数	289名	学校沿革の略歴 明治 15. 8 常盤小学校鷺別分校として創立 10 幌別小学校鷺別分校に名称変更 19. 4 戸数減少で廃校 23. 3 幌別小学校鷺別分校として再開校することが決定される。 34. 4 鷺別尋常小学校と称する。 昭和 10. 4 鷺別尋常高等小学校と称する。 16. 4 鷺別国民学校と改称される。 18. 9 屋内体育館及び4教室増築 22. 4 鷺別小学校と改称される。 35. 10 開校70周年記念式典 43. 4 特殊学級開設 46. 4 若草小学校（通学区分離）が分離開校 54. 10 開校90周年記念式典 60. 10 学校プール完成 平成 元. 5 開校100周年記念式典 3. 3 道教育庁生涯学習まちづくり百選に「鷺別子ども獅子舞保存会」が選定 4. 11 胆振教育局研究指定公開研究会開催 8. 11 胆振教育局研究指定公開研究会開催 11. 9 コンピュータ室新設 13. 4 学童ボランティア活動普及事業と力校指定情報教育推進協力校の指定 16. 4 「子どもと親の相談員」活用調査研究指定 17. 8 学校前花壇整備で日本道路協会より表彰 20. 6 放課後子ども教室「ひなわしメート」開設 放課後児童クラブ開設 21. 4 開校120周年記念式典 22. 1 一線校舎トイレ洋式化完了 25. 2 スキー授業開始 27. 3 体育館改築工事終了 28. 12 校舎改築工事終了 30. 3 グラウンド・外溝整備等工事終了
学級数	普通12 特別3 計15学級	
職員数	26名	
敷地面積	26,330m ²	
学校教育目標	豊かな心情を培い、活動力に満ちた健康な心身の育成をはかる ○よく協力し、思いやりのある子 ○健康でねばり強い子 ○自分で考え、正しく判断し、実践する子	
学校経営方針・今年度の重点	学校経営の方針 1. コミュニティ・スクールの推進 2. 選択と集中～チーム鷺別小よる学校改善～ 3. 子供たちの変容を着実に促す授業改善 今年度の重点 1. 確かな学力を育てる取組 （1）地道な授業改善 （2）家庭・地域の教育力の活用 （3）読書の日常化 2. 豊かな心と健やかな体を育てる取組 （1）道徳教育の充実 （2）いじめのない学校づくり （3）不登校への対応 （4）百才を目指す健康づくり 3. 信頼される学校を目指す取組 （1）安心・安全な学校づくり （2）学校力の向上 （3）幼保小中連携の推進 （4）地域と共にある学校づくりの推進	

登別市立富岸小学校


		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流（1年） ・畑の先生との栽培活動（2年・特支学級） ・キウシト湿原での活動（3年） ・アイヌ文化・芸能の伝承（4年） ・スキー指導（5・6年） ・図書ボランティア活動（全学年） ・あったか富岸小運動（全学年） ・富岸川あそび（7月） ・親子もちつき会（1月） ・牛乳パックリサイクル活動 ・地域及びPTAによる登下校安全指導
創立年月日	明治29年5月1日	研究主題 学習指導要領の改訂に基づいた授業改善 ～「主体的・対話的で深い学び」の 実現に向けた取組～
所在地	登別市富岸町2丁目17番地4	
電話・FAX	TEL 86-6303 Fax 86-0904	
校長名	柴田 政人	
教頭名	柳瀬 智雄	
児童生徒数	462名	
学級数	普通16 特別3 計19学級	学校沿革の略歴 明治 29. 5 室蘭郡私立チリ別小学校分校として創立 33. 5 幌別郡公立富岸簡易教習所と改修独立 大正 5. 3 鷺別小学校に吸収合併 11. 4 鷺別小学校附属富岸教習所として復校 昭和 8. 4 富岸尋常小学校として独立 9. 校舎改築 36. 校舎新築移転 51. 3 体育館新築落成 53. 4 校舎新築移転、通学区変更 60.10 開校90周年記念式典 63. 9 カナダロバートランドル小と姉妹校提携 平成 2.10 全道学級経営研究会・登別大会開催 3. 3 学童ボランティア活動普及事業協力校指定 3. 4 文部省「奉仕等体験学習研究推進指定校」 5. 2 胆振教育局教育実践表彰受賞 11 PTAが全国表彰を受賞 7.10 開校100周年記念式典 9.12 北海道花いっぱい運動奨励賞を受賞 16.11 文科省「学力向上フロンティアスクール」公開研開催 17. 2 胆振教育局教育実践表彰受賞 18. 2 北海道教育実践表彰受賞 19.11 登別市教育実践奨励校公開研究会開催 24. 8 校舎屋上・理科室床改修工事完了 26. 1 体育館耐震化改修工事完了 27.11 登別市教育実践研究奨励校 登別市・白老町地域連携研究主体校 胆振管内小中学校教育実践研究奨励校 開校120周年記念公開研究会開催 30. 4 登別市教育実践奨励校 30. 7 校舎耐震工事
職員数	28名	
敷地面積	29,891m ²	
学校教育目標	○思いやりのある子	
	○深く考える子	
学校経営方針・今年度の重点	○からだを鍛える子	
	〈基本方針〉 ・基礎的・基本的な学力の定着と読書活動の推進、及び体験的な活動や課題解決的な学習の充実による『確かな学力』の育成 ・豊かな心を育む道徳の時間の指導の改善と、体験や活動等を通じた道徳実践の充実 ・日常的な体力づくりの取組の継続による健康と体力の増進 ・地域人材や教育資源を活かした、『特色ある教育活動』の充実 ・家庭・地域との連携・協働を基盤とした、『地域とともにある学校づくり』の推進 〈重点課題〉 ・子どもや保護者に対する「迅速・正確・丁寧な対応」 ・「わかる」「できる」が実感できる日常授業の充実 ・家庭学習の習慣化と基礎・基本の定着 ・「心に響く」道徳授業と思いやりを育む日常実践 ・率先垂範の態度とその場に応じた適切な言葉かけ ・校舎内外の清掃活動の徹底と学習環境の充実 ・安心・安全な環境作り ・いじめ防止の組織的な取組の充実	

登別市立登別小学校




		特色 ・町内会の協力を得たふるさと農園実施 ・児童会によるリングブル回収活動 ・外国語活動、国際理解教育の推進 ・図書ボランティアによる読み聞かせ ・すもう学習の実施 ・マーチングバンドによる活動 ・学校裏山を利用したスキー学習 ・外国人観光客に向けた学校紹介などによるふるさと観光教育の推進。
		研究主題 自ら考え、仲間とともに 生き生きと学ぶ児童の育成 ～できる喜びを味わわせ、問題解決能力を高める算数科の指導の工夫～
創立年月日 所在地 電話・FAX 校長名 教頭名	明治25年8月10日 登別市登別本町3丁目25番地2 TEL 83-1014 Fax 83-1423 片倉 徳生 上渡 秀一	学校沿革の略歴 明治 25. 8 幌別尋常小学校登別分校として創立 28. 4 公立登別尋常小学校として改称・独立 38. 4 登別温泉簡易教育所が本校より独立 44. 2 蘭法華（現富浦地区）特別教授所開設 大正 2. 2 蘭法華特別教授所を本校に合併 9. 3 高等小学校併置認可 昭和 16. 4 登別国民学校と改称 22. 4 登別小学校と改称 27. 11 胆振管内道徳研究会開催 36. 9 開校70周年記念式典開催 45. 鉄筋コンクリート一線校舎新築 46. 鉄筋コンクリート二線校舎新築 53. 8 文部省指定学校歯科保健活動開始 58. 10 文部省指定1年次道徳研究会開催 61. 6 家庭教育学級開設 62. 7 土俵完成、土俵開き、相撲大会（9月） 平成 元. 10 第一期校舎改修工事完了 2. 10 第二期校舎改修工事完了 3. 10 開校100周年記念式典開催 11. 2 コンピュータールーム新設 14. 3 胆振管内教育実践表彰受賞 15. 10 北海道歯科保健優良校表彰STV賞受賞 18. 4 コミュニティー・スクール推進事業調査研究校を受理 18. 10 北海道歯科保健優良校表彰優秀賞受賞 19. 4 登別温泉小学校との校区一体化 22. 4 すもう飛翔櫓再建落成式 23. 11 開校120周年公開研究会の実施 24. 10 二線校舎一階に「登別児童クラブ」開設 25. 7 耐震化のため体育館改修工事（～11月） 9 地震・津波想定三校合同避難訓練 26. 7 飛翔櫓補修 9 北海道学校歯科保健優良校表彰優秀賞受賞 27. 9 平成27年度日本教育公務員弘済会教育研究実践奨励校指定校 27. 10 北海道学校歯科保健優良校表彰優秀賞受賞 27. 11 登別市教育実践研究奨励校公開研究会 28. 6 北海道ふるさと教育・観光教育等推進事業指定校 28. 10 全日本歯科保健優良校表彰奨励賞受賞 29. 10 全日本歯科保健優良校表彰奨励賞受賞 11 登別市教育実践研究奨励校公開研究会
児童生徒数 学級数 職員数 敷地面積	152名 普通6 特別2 計8学級 14名 37, 173m ²	
学校教育目標 〇よく考える子 〇からだをきたえる子 〇なかよく助け合う子 〇がんばりぬく子	丈夫な体と豊かな心をもって、 意欲的にたくましく生きる子	
学校経営方針 ・重点 今年度の重点	方針 『明日を楽しみにできる期待と信頼のある学校』 児童：子どもたちの達成感と満足感により笑顔いっぱい、元気いっぱいの学校 保護者：保護者や地域住民にとって安心と信頼のできる学校 教職員：教職員が子どもたちの成長を実感し、やりがいを実感できる学校 (1)生きて働く知識・技能の習得と活用力の育成、その基盤となる学級経営の充実 ・学力向上対策委員会を中心に組織的な対応 ・学力格差を縮め、知識・技能の確実な習得と活用力の育成 ・一人一人が存在感・有用感を実感する学級経営の推進 (2)豊かな心と健やかな体の育成 ・思いやりなどの豊かな心を目指した道徳教育の充実 ・年間通じた体力づくりの推進 (3)家庭や地域と連携・協働を目指した学校運営の推進 ・家庭や地域と連携・協働した活動の推進	

登別市立幌別東小学校

		特色 ・学校・地域・保護者が一体となって子どもを育むコミュニティ・スクール ・校外班による校区の清掃活動 ・郷土の文化や伝統を生かす「駒踊り」の伝承 ・放課後子ども塾「東っ子」の取り組み ・リングブルの回収を通したりサイクル活動 ・朝学習チャレンジタイムの実施（毎朝10分） ・朝読書の励行（毎朝10分） ・年6回土曜授業の実施 ・全校児童縦割班による日常的な清掃活動
研究主題 豊かな心を育む道徳教育の充実 ～主体的に考え、議論する道徳科の授業改善～		
創立年月日 所在地 電話・FAX	昭和45年4月1日 登別市幌別町8丁目16番地1 TEL 85-3532 Fax 85-9053	学校沿革の略歴 昭和 45. 4 幌別小学校から分離開校する。 10 屋内体育館完成 11 開校落成式 46. 5 特殊学級開設認可 47. 8 屋外プール完成 49. 2 胆振管内教育振興実践表彰受賞 51. 10 校舎前庭に交通公園完成 53. 2 北海道教育実践表彰受賞 3 登別市教育文化貢献表彰受賞 11 全国表彰「博報賞」受賞 54. 10 開校10周年記念式典 56. 3 北海道教育実践論文全文掲載 59. 10 教育大附属函館小学校と共同研究による公開研究会開催 62. 10 教育大附属函館小学校と共同研究による道徳公開研究会開催 63. 11 ハイパス建設に伴い、学校プール移転新設 平成 元. 12 開校20周年記念式典挙行 文部省指定道徳共同推進校公開研究会 6. 1 文部省主催教育課程全国研究発表 9. 8 体育館暖房施設設置 11. 9 市民憲章花壇コンクール最優秀賞受賞 15. 2 児童・生徒ボランティア活動普及事業実践発表 12 全道「花いっぱいコンクール」優秀賞受賞 18. 2 胆振管内教育実践表彰受賞 20. 2 北海道教育実践表彰受賞 23. 10 放課後子ども教室「はまなすメート」開設 25. 7 国道側フェンス改修工事(災害復旧) 26. 4 学校運営協議会設置 10 鉄南地区地域合同避難訓練に土曜授業として参加する。 27. 7 体育館屋外放送の営繕、グラウンド排水ますの埋設 10 郷土芸能「幌別おどり」の伝承を土曜授業に取り入れる。 28. 12 郷土芸能「幌別駒おどり」幌別地区市民演芸会にて全校発表
校長名	坂本 博	
教頭名	鈴木 貴雄	
児童生徒数	81名	
学級数	普通6 特別2 計8学級	
職員数	13名	
敷地面積	27,897m ²	
学校教育目標 ○心身ともに健康な子どもになります。 ○よく考える子どもになります。 ○一生懸命やりぬく子どもになります。 ○みんな仲良くする子どもになります。		
学校経営方針・今年度の重点 学校課題 ～子どもたちの健やかな成長と地域とともにある学校づくり～ 【学校経営方針】 方針1「確かな学力の向上」 重点1：学力の実態把握 重点2：教育課程の改善・充実 重点3：個に応じた指導の充実 重点4：基礎基本の定着 重点5：授業改善の取組 重点6：学習習慣の確立 重点7：特別支援教育の充実 方針2「豊かな心と健やかな体の育成」 重点1：道徳教育の充実 重点2：読書活動の充実 重点3：生徒指導の充実 重点4：基本的生活習慣の確立 重点5：体力づくりの推進 方針3「信頼される学校づくり」 重点1：開かれた学校づくり 重点2：学校力・教師力の向上 重点3：安全・安心な学校		

登別市立若草小学校

		特色ある教育活動 ・教材園・ふれあい農園での栽培活動 ・委員会によるリングプル収集・給食牛乳パックリサイクル ・短縄記録会と長縄記録会 ・放課後子ども学習塾の開催 ・土曜授業の実施 ・町内会と行う津波避難訓練 ・自動車学校等と連携した安全教室 ・学校運営協議会とPTAが共同開催する「若草小地域交流祭り」	
創立年月日	昭和46年4月1日		
所在地	登別市若草町1丁目1番地2		
電話・FAX	TEL 86-7513 Fax 86-5440		
校長名	土井 嘉 啓	研究主題 ○「特別の教科 道徳」の特質を活かした授業づくり ～学級づくりと評価の工夫を通して～	
教頭名	赤塚 恒 太		
児童生徒数	304名		
学級数	普通12 特別2 計14学級		
職員数	20名	学 校 沿 革 の 略 歴	
敷地面積	25,707m ²	昭和 46. 4 若草小学校創立 5 父母と先生の会発足 10 屋内体育館完成 11 開校落成記念式典 48. 8 プール完成 54. 3 胆振管内教育実践表彰を受ける。 55. 4 特殊学級認可 55.10 開校10周年記念式典 56. 8 大雨により被害を受ける。 58. 3 新校舎増築完成 平成 10 開校20周年記念式典 7. 8 白石市へまめ記者訪問する 9. 8 3階和室新設 11. 3 情緒障害児学級認可 12.11 開校30周年記念式典 13. 1 コンピュータインターネット配線完了 14. 3 校舎大規模改修工事着工 15.12 校舎大規模改修第1期工事終了 16.10 校舎大規模改修第2期工事終了 17. 1 校舎全面使用 18. 3 特別支援学級2学級認可 22. 4 開校40周年記念運動会 23. 3 東日本大震災への募金活動(児童会) 26. 6 学校運営協議会(コミュニティスクール)発足 26.11 平成25・26年度胆振管内小・中学校教育実践研究奨励校 指定 平成25・26年度登別市教育実践研究奨励校指定公開研究会開催 27. 4 平成27・28年度登別市教育実践研究奨励校指定(道徳科研究) 29. 5 平成29・30年度登別市教育実践研究奨励校指定(道徳科研究) 29. 8 平成29・30年度胆振管内小・中学校教育実践研究奨励校指定(道徳科研究) 30. 7 平成30年度北海道道徳教育推進校事業推進校指定	
学校教育目標 知徳体の調和のとれた 人間性豊かな子どもをはぐくむ ○たくましい子……やる気(創造的態度) ○考える子……やる力(創造力) ○健康な子……やる人(創造的人格)	【方針】 ～組織としての意識を揃え、足並みを揃えた指導に努める～ 1. 子ども達のもっている力を伸ばし、引き出すために、活動の一つ一つにけじめをもち、集中して取り組むことを基盤とする学級づくりに努める。 2. 新学習指導要領が示す教育課題に積極的に対応しながら、道徳性を基盤とした知・徳・体の調和のとれた教育課程の編成・実施・評価・改善に努める。 3. 教師の生命は授業であることを自覚し、日常の授業実践の工夫・改善を図り、教師としての指導力向上に努めるとともに、主体的・自発的な研究・研修活動に努める。 4. 学校と地域社会・近隣小中学校との連携を強化し、児童の成長を互いに喜び合える開かれた学校の推進と協体制の確立に努める。 【重点】 (1) 教職員一人一人の高い経営参画意識に裏打ちされた協働体制の確立に努める。 (2) 地域の力を生かし、地域に根差した創意ある教育課程の編成と実施に努める。 (3) 心のふれあいを大切にする学級経営の充実に努める。 (4) 豊かな感性と思いやりの心を育み、健康で安全に生活できる態度を養う環境づくりに努める。 (5) 「わかる喜び、できる楽しさを実感できる」授業力の向上に努める。 (6) 家庭・地域社会との連携を強化し、開かれた学校運営の推進に努める。	学校経営方針・今年度の重点	

登別市立青葉小学校



創立年月日	昭和52年4月1日
所在地	登別市青葉町3番地3
電話・FAX	TEL 85-1477 Fax 85-1249
校長名	工藤 信司
教頭名	福田 良弘
児童生徒数	286名
学級数	普通11 特別2 計13学級
職員数	19名
敷地面積	29,226m ²

学校教育目標	『豊かな人間性をめざし、心身共に健康で、自主的・創造的な子どもを育成する』 ○強い子ども(体) 心身ともに健康でがんばりぬく子 ○明るい子ども(徳) 情操豊かで、助け合い励まし合う子 ○考える子ども(知) 進んで学びきり拓いていく子
学校経営方針・今年度の重点	方針 *新学習指導要領の告知を受け、これからの本校が目指す教育の方向を示す。(移行期の対策、対応) *学校・保護者・地域が一体となり、学校運営協議会を核としたコミュニティ・スクールを推進し、社会に開かれた教育課程を編成する。(地域環境、人材育成、協働・参画) ①『協働・参画』によるコミュニティ・スクールの推進 ②『主体性・自主性』を育む 重点 ・「確かな学力」を身につけさせる授業 ・「豊かな心」と「健やかな体」を育む教育活動 ・保護者・地域に「信頼される学校」づくり

特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい農園による栽培活動 ・牛乳パック・リングブルの回収活動 ・キウシト湿原を活用した環境学習 ・朝読書、ブックサポーターによる読み聞かせ ・外部講師によるクラブ活動 ・地域人材を活用した放課後学習サポート ・世代間交流、入浴体験などの豊かな体験活動 ・地域の牧場斜面を活用した冬の雪遊び
----------	---


研究主題	自分の考えをもち、ともに学び合う子どもの育成 ～言葉を大切にし、学び方を高める国語の授業づくりを通して～
------	---

学校沿革の略歴	昭和 52. 4 幌別西小学校より分離創立 10 校舎落成記念式典 55. 5 グランドに桜苗木を植樹 9 「青葉の森」開き 57. 7 埋蔵文化財発掘体験学習 61. 7 開校10周年記念式典 62.12 青葉スケートリンク第1回造成活動開始 平成 元. 3 ギネス「長縄跳び90人」世界新記録樹立 3. 2 生き生き生涯学習20選表彰(「青葉スケートリンク実行委員会」) 5. 5 グランド山側にフェンスを設置 6. 3 胆振管内教育実践表彰受賞 8.10 開校20周年記念式典 11. 8 コンピュータ室完成(14台設置) 9 校内暖房施設FF式に切り替え 12. 9 市民憲章花壇コンクール最優秀賞受賞 13.11 インターネット光ケーブル引込み校内LAN工事完成 16. 3 北海道PTA広報誌コンクール審査員特別賞受賞 4 特別支援学級(情緒障害)開設 18. 3 北海道PTA広報誌コンクール審査員特別賞受賞 12 開校30周年記念式典 21. 1 児童用トイレ完全洋式化 22.10 体育館耐震化改修工事完了 24. 9 東非常階段全面改修工事完了 25. 8 屋上フェンス災害復旧工事完了 26. 4 学校運営協議会設置(コミュニティ・スクール) 8 鉄棒新設工事完了 27.11 屋上防水・耐震改修工事完了 12 保健室、職員・児童玄関改修工事完了 28. 1 校舎外壁工事完了 3 西非常階段、校長室、PTA会議室耐震壁工事完了 5 視聴覚室耐震壁工事完了 6 ふれあい坂舗装補修工事完了 8 図書室・家庭科室・2の2耐震壁工事完了 11 開校40周年を祝う会 職員室・放送室・印刷室耐震壁工事完了 29. 2 4の1耐震壁工事完了 青葉スケートリンク30周年記念祝賀会 3 階段転落防止ネット改修工事完了 7 青葉スケートリンク整理・整地作業完了 30. 1 スキー学習(5.6年生)
---------	---

登別市立幌別中学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の励行 ・地域との合同避難訓練 ・地域ボランティア（町内会）による校外巡視指導 ・図書室ボランティアによる本の整理と貸し出し ・土曜授業
創立年月日	昭和22年5月1日	研究主題 <p>思考力・判断力・表現力等を高める授業の工夫 ～主体的に学ぶ活動を通して～</p>
所在地	登別市千歳町3丁目1番地3	
電話・FAX	TEL 85-3111 Fax 85-3112	
校長名	千葉光弘	
教頭名	石崎和昌	
児童生徒数	195名	学校沿革の略歴
学級数	普通6 特別2 計8学級	昭和 22. 5 幌別小学校の校舎一部を借り、設置認可 26. 7 千歳町132番地（現在地）に新校舎落成 28.10 校舎前グラウンド新設 32. 9 開校10周年記念式典 39. 5 屋内体育館落成 32学級 1,450名 42. 4 特殊学級認可 49. 4 西陵中学校分離 52.10 開校30周年記念式典 59.10 文部省指定道徳教育協同研究会開催 60.11 文部省指定生徒指導研究会開催 62.11 校舎改修第1期工事完成 63. 8 校舎改修工事第2期工事完成 平成 2. 9 文部省指定道徳研究会開催 3. 2 胆振管内教育実践表彰を受賞 4.10 「社会を明るくする運動」法務大臣より感謝状を受ける。 7. 2 北海道教育実践表彰受賞 8. 2 新屋内体育館竣工 9.11 開校50周年記念式典 13.10 胆振おやじサミットを主催 15.11 「おやじの会」日本PTA全国協議会表彰及び北海道PTA連合会表彰を受賞 17. 1 韓国教育視察団来校 20. 9 全道吹奏楽コンクール銀賞 25. 9 全国生徒会サミット参加 26.10 文科省 土曜授業推進事業指定 27. 5 神奈川県海老名市立大谷中学校修学旅行による生徒間交流 28. 4 開校70周年記念実践発表会開催 28. 8 全道吹奏楽コンクール銀賞 29. 7 全道陸上競技大会出場3名 29. 9 全道卓球新人戦 男子団体出場 29.10 全道英語暗唱大会出場
職員数	18名	
敷地面積	37,381m ²	
学校教育目標	○体が丈夫で、進んで働く人 ○はきはきと行動し、最後までやりぬく人 ○豊かな心で、新しいものを生み出せる人 ○心のこもったことばがこいや行いのできる人 ○互いに信じ合い、みんなの役に立つ人	
学校経営方針	方針及び今年度の重点 ○方針 共有・連携・成長 ～目的・課題を明確にした教育課程の不断の見直し～ ○経営の重点 1. 授業最優先・授業の充実を図り、授業力を強化する。 2. 心の教育の充実 3. 自己指導能力の育成 4. 学力向上に向けた取組の見直し 5. 健やかな体の育成 6. 土曜授業を活用したコミュニティスクールの実践 7. 特別支援教育の充実 8. 教育環境整備 9. 小中一貫教育の推進 10. 次期学習指導要領へ向けて	
今年度の重点	○基本姿勢 1. 教師としてすべきことを当たり前続ける教師。 2. 率先垂範、アクティブに行動し、学び続ける教師。 3. お互いを支え合い、厳しく評価する教師。 4. 明るく前向きに自己を問う教師。 5. 仕事に誇りを持ち、失敗を恐れずに職務を遂行する教師。	

登別市立登別中学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと学習」の一環として地獄まつりへの参加、郷土芸能「熊舞」「鬼みこし」の取組、登別駅前での観光PR ・全校生徒による町内クリーン作戦 ・幼保小中連携（防災、キャリア教育等） ・地域（町内会）とPTAによるあいさつ一声運動、交通安全指導、防犯巡回 ・PTAによる地域の祭典「わくわく広場のぼりべつ」への出店 ・PTAによる卒業記念「餅つき集会」
創立年月日	昭和22年5月1日	研究主題 豊かな心を持ち、主体的・自律的に生きる生徒の育成 ～道德教育の充実を通して～
所在地	登別市登別本町1丁目1番地1	
電話・FAX	TEL 83-1029 Fax 83-1929	
校長名	小林 誠	
教頭名	山岸 弘昇	
児童生徒数	76名	
学級数	普通3 特別2 計5学級	学校沿革の略歴 昭和 22. 5 設置認可 開校式 24. 4 新校舎落成（木造独立校舎） 30. 7 体育館落成 32. 9 開校10周年記念式典 38. 7 新校舎落成（鉄筋コンクリート2階建） 42. 10 開校20周年記念式典 45. 2 教育実践優良校として道教委表彰受賞 53. 9 文部省指定生徒指導研究推進校として文部省より感謝状を受ける。 57. 11 胆振教育局指定教育課程研究会開催 59. 10 文部省指定「道德教育協同研究推進校」として研究会開催 63. 10 全道道德研究会登別大会授業公開 平成 3. 11 校舎大規模改造工事平成3年度分終了 4. 11 校舎大規模改造工事平成4年度分終了 6. 11 体育館大規模改造工事完了 9. 11 開校50周年記念式典 14. 6 漁港清掃で北海道漁港漁場協会より表彰 15. 9 温泉中学校との交流を開始 16. 4 温泉中学校との統合による教育活動開始 18. 11 市教育実践奨励校公開研究会 20. 2 サイパン中学生交流事業 23. 9 体育館耐震化工事完了 26. 4 コミュニティスクールへ移行 27. 10 白石市生徒との交流授業実施 28. 7 平秀里様より吹奏楽部に楽器の寄贈 28. 7 ニッセイ財団より熊舞衣装助成を受ける 29. 10 平秀里様より吹奏楽部に楽器の寄贈 30. 2 校舎耐震改修工事完成
職員数	14名	
敷地面積	30,467m ²	
学校教育目標	○思いやりをもち 厳しさに耐える ○命を大切にし 心身を鍛える ○すすんで学び 正しく判断する 校訓：清く 明るく 大らかに	
学校経営方針・今年度の重点	【学校経営の重点】 生徒の自己実現のため、自己指導力を育成する 『まかせる・ほめる・うけとめる』 【目指す学校像】 「凜とした学校」 【目指す生徒像】 「正しく生きる生徒」 【目指す教師像】 「情熱・感動を持ち続ける教師」	

登別市立西陵中学校

		特色 ・「将来を見つめる」 1年 職場訪問 2年 職場体験 3年 進路を考える ・PTA主催による合格祈願「餅つき」 ・数学の習熟度別授業、TT授業 ・地域・PTA合同の交通安全挨拶運動 ・退職教員活用事業による放課後学習 ・外部人材の活用(ダンス、携帯講座等) ・毎年のPTAのOB会「清流会」開催 ・小中合同避難訓練(土曜授業)
創立年月日	昭和49年4月1日	研究主題 一人ひとりが主体的に学ぶ 生徒の育成 ～生徒同士の関わり合いを大切に した小集団での協同(働)的な学習を 取り入れた授業を通して～
所在地	登別市片倉町5丁目12番地1	
電話・FAX	TEL 85-5041 Fax 85-5085	
校長名	瀧澤 義守	
教頭名	中島 英治	
児童生徒数	132名	
学級数	普通5 特別2 計7学級	
職員数	15名	学校沿革の略歴 昭和 49. 4 設立開校 9 開校入学式(幌別西小体育館で挙 行) 12 体育館一部完成 50. 2 開校落成記念式典 10 胆振管内英語教育研究会開催 12 胆振管内進路指導研究会開催 51. 11 体育館増設工事完成 52. 4 青葉小学校開校に伴い学区一部変更 58. 3 緑陽中学校開校に伴い分離式を行 う。 58. 10 開校10周年記念式典 62. 10 胆振管内進路指導研究会開催 平成 4. 11 胆振教育局指定(教科指導)研究会開催 5. 10 開校20周年記念式典 6. 10 学校花壇全国表彰受賞 7. 11 胆振教育局指定(教科指導)研究会開催 8. 8 体育館大規模改修工事竣工 12. 3 胆振管内教育実践表彰受賞 12 第1期耐震補強校舎改修工事完成 13. 2 北海道教育実践表彰受賞 13. 10 第2期耐震補強校舎改修工事完了 15. 9 開校30周年記念式典 16. 4 特殊学級(情緒)設置 18. 4 文科省指定「キャリア教育実践校」 を受ける。 19. 4 特別支援学級(知的)設置 24. 9 体育館耐震化工事完了
敷地面積	22,869m ²	
学 校 教 育 目 標	「英知・健康・情操・意志」 ○正しい判断力と豊かな知性をもつ人 ○健康な体とたくましい行動力をもつ人 ○思いやりの心と寛い友情をもつ人 ○ねばり強い根性とくじけない心をもつ人	
学 校 経 営 方 針 ・ 今 年 度 の 重 点	経営の基本 <u>「けじめ」「安心」「信頼」のある学校づくり</u> 全教職員の協働と連携のもと、凡事徹底によ り望ましい教育環境や教育活動の充実に努め ることで、すべての生徒が誇りを持って生活・ 学習する活気ある学校づくりを推進する 1. 教師は常に5Wを意識して生徒に対応する FW(フット・ワーク) 生徒と共に行動する HW(ヘッド・ワーク) 知恵を出し合う NW(ネット・ワーク) 報告・連絡・相談の徹底 関係機関との連携 TW(チーム・ワーク) 共通理解と教頭 RW(ロード・ワーク) 教師の力量を高める研修 2. 教師も生徒も凡事徹底 ①集中した集会活動②挨拶・返事・身だしなみ ③整理整頓・後始末・時間厳守・規範意識の徹底 3. 自ら進んで友達と協力して学ぶ学習を推進する 一斉授業から自ら主体的に学ぶ授業へ転換 を図り、できるところから授業改善を進める	

<<<社会教育施設>>>

市民会館

所在地 登別市富士町7丁目33番地1 (Tel 0143-88-1139)

構造 鉄筋コンクリート造2階建

昭和58年6月1日開館

面積 建築2,833㎡ 延床4,658.81㎡

施設 1階 大ホール、大会議室、
サークル活動室、木工室、和室、
教育委員会事務室 など

2階 中ホール、小会議室、視聴覚室、
児童室、調理室、婦人サークル室、
青少年センター、一般財団法人登
別市文化・スポーツ振興財団事務室など



開館時間 午前9時～午後10時

休館日 年末年始

指定管理者 一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団

<利用状況>

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
大ホール	79件	72件	72件
	18,844人	16,538人	15,441人
中ホール	227件	245件	216件
	17,510人	17,365人	14,862人
大会議室	312件	273件	243件
	11,594人	10,074人	8,818人
小会議室	183件	196件	231件
	2,179人	2,017人	2,280人
児童室	139件	128件	149件
	1,852人	1,534人	984人
和室	376件	369件	301件
	3,101人	3,115人	2,306人
サークル活動室	391件	290件	249件
	3,581人	2,986人	2,426人
木工室	152件	145件	137件
	1,427人	1,498人	1,366人
視聴覚室	331件	286件	227件
	5,380人	4,583人	3,477人
調理室	81件	78件	74件
	1,506人	1,244人	1,108人
婦人サークル室	157件	152件	153件
	2,052人	2,172人	1,336人
合計	2,428件	2,234件	2,052件
	69,026人	63,126人	54,404人

鷺別公民館

所在地 登別市鷺別町3丁目3番地4

(Tel 0143-86-8823)

構造 鉄筋コンクリート造2階建
昭和38年12月25日開館

面積 建築 741 m² 延床 1,391 m²
施設 1階 会議室、研修室、和室
2階 ホール、和室

開館時間 午前9時～午後10時

休館日 年末年始

指定管理者 一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団



<利用状況>

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
ホール	450件	352件	317件
	18,224人	13,274人	11,912人
1号会議室	449件	479件	429件
	2,610人	2,784人	2,490人
2号会議室	509件	515件	519件
	4,974人	5,240人	5,437人
1号和室	477件	431件	444件
	3,054人	2,667人	2,966人
2号和室	443件	434件	387件
	2,029人	1,991人	1,626人
3号和室	347件	355件	343件
	1,478人	1,525人	1,324人
研修室	110件	142件	146件
	416人	498人	541人
合計	2,785件	2,708件	2,585件
	32,785人	27,979人	26,296人

登別公民館

所在地 登別市登別東町2丁目21番地1

(Tel 0143-83-1131※登別支所)

構造 木造一階建
昭和44年5月7日開館

面積 建築 207 m² 延床 207 m²
施設 1号室、2号室、3号室

開館時間 午前9時～午後10時

休館日 年末年始



<利用状況>

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1～3号室	25件	17件	14件
	2,064人	1,051人	1,722人
主な利用	集会		

登別温泉公民館

所在地 登別市登別温泉町17
 (Tel 0143-84-2068 ※登別温泉支所)
 構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造3階建
 昭和44年8月開館
 面積 建築 231㎡ 延床 700㎡
 施設 1階 消防車庫
 2階 消防署
 3階 ホール、和室、児童室
 開館時間 午前9時～午後10時
 休館日 年末年始



<利用状況>

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
会議室・和室	42件	75件	29件
	613人	840人	389人
主な利用	集会		

図書館

所在地 登別中央町5丁目21番地1 (Tel 0143-85-4324)
 構造 鉄筋コンクリート造3階建 昭和47年5月開館
 面積 建築 346㎡ 延床 1,025㎡
 施設 1階 児童室、えほんのへや、事務室
 2階 一般閲覧室、開架庫、
 3階 会議室、閉架書庫、郷土資料室
 開館時間 平日 午前10時～午後6時 木曜日 午前10時～午後7時30分
 休館日 月曜日、祝日、毎月最終金曜日 年末年始

<利用状況>

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
本館開館日数	275	277	278	276	276
移動図書館車巡回日数	225	226	225	223	223
蔵書冊数	170,225	173,732	158,592	157,493	160,684

<貸出冊数>

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
本館	145,657	139,339	140,161	133,376	119,771
移動図書館	27,261	23,898	23,654	21,241	20,131
配本所	43,254	48,432	56,346	54,964	53,376
団体貸出	18,821	15,559	19,816	9,373	10,394
合計	234,993	227,228	239,977	218,954	203,612

<図書館利用人数>

区分	28年度	29年度
本館	30,560	28,439
移動図書館車	8,929	8,309
驚別配本所	8,789	8,794
登別配本所	1,089	1,100
登別温泉配本所	203	223
アニス分館	9,579	8,606
合計	59,149	55,471

<年度別新規登録人数>

28年度	29年度
676	563
14	14
80	67
15	9
9	15
76	82
870	750

<年齢別利用人数>

区 分	28年度	29年度
0～6歳	7,029	6,842
7～9歳	4,243	3,257
10～12歳	2,576	2,375
13～15歳	639	725
16～18歳	732	301
19～22歳	353	471
23～29歳	1,354	962
30～39歳	6,505	5,469
40～49歳	7,634	7,014
50～59歳	5,188	5,325
60～69歳	11,935	11,059
71歳以上	9,983	10,707
そ の 他	242	111
団 体	795	891
合 計	59,208	55,509



登別市立図書館本館

登別市青少年会館

所在地 登別市中央町5丁目21番地12

(Tel 0143-85-3107)

構造 鉄筋コンクリート造2階建

昭和44年3月25日開館

面積 建築 602㎡ 延床 675㎡

施設 1階 体育館

2階 研修室、和室

開館時間 午前9時～午後10時

休館日 年末年始

<利用人数>

区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
大人個人	231人	301人	215人
児童生徒個人	1,599人	1,306人	1,610人
団体利用	17,678人	17,158人	17,496人
合 計	19,508人	18,765人	19,321人
主 な 利 用	バレーボール・ミニバレー・ラケットテニス・剣道・レクダンス・バドミントン		

富岸青少年会館

所在地 登別市富岸町2丁目23番地15

(Tel 0143-86-2449)

構造 鉄骨造一部木造1階建

昭和54年4月3日開館

面積 建築 597㎡ 延床 597㎡ (専用のみ)

施設 体育館、研修室、児童室

開館時間 午前9時～午後10時

休館日 年末年始



<利用人数>

区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
大人個人	214人	240人	150人
児童生徒個人	600人	685人	688人
団体利用	26,293人	23,245人	22,063人
合 計	27,107人	24,174人	22,901人
主 な 利 用	ミニバレー・バドミントン・ラケットテニス・剣道・レクダンス		

登別市郷土資料館（文化伝承館）

所在地 登別市片倉町6丁目27番地2 (Tel 0143-88-1339)

構造 鉄筋コンクリート造2階建

昭和56年9月1日開館

平成8年3月29日開館（文化伝承館）

面積 建築 542㎡ 延床 675㎡

施設 1階 展示室

（昔の生活、幌別鉱山などの展示）

準備室、伝承体験コーナー、

事務室、収蔵庫など

2階 展示室

（片倉家ゆかりの展示）

開館時間 4月～10月 午前10時～午後5時

11月～3月 午前10時～午後4時

休館日 月曜日（祝日、休日にあたる月曜日は開館）、国民の祝日の翌日、年末年始

<利用人数>

区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
大人	2,476人	2,700人	2,312人
小人	961人	1,152人	705人
合 計	3,437人	3,852人	3,017人



ネイチャーセンター（ふおれすと鉱山）

所在地 登別市鉱山町8番地3

(Tel 0143-85-2569)

構造 鉄筋コンクリート造1階建

平成14年4月25日開館

面積 建築 1,477㎡ 延床 1,487㎡

施設

木工室、森の図書館、

自然情報展示、研修室、

食堂、ロビー、ネイチャーホール、

浴室、宿泊室（80人収容）

開館時間 午前9時～午後5時30分

休館日 月曜日、年末年始（月曜日が祝日の場合は翌日休館、7～8月は休館日なし）

指定管理者 NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ



<利用人数>

区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
大 人	12,098人	11,270人	11,000人
児童生徒	9,058人	8,366人	8,644人
幼 児	4,195人	4,043人	4,041人
合 計	25,351人	23,679人	23,685人

のぼりべつ文化交流館（カント・レラ）

所在地 登別市登別温泉町123番地1 (Tel.0143-84-2069)

構造 鉄筋コンクリート造3階建

平成19年6月1日開館

面積 建築 1,858㎡、延床 3,536㎡

施設 1階 学習室、図書室、保管室、体育館、
体験学習室、収納展示室 など

2階 胆振教育研究所、教育資料室

研修室、展示室、談話室、調理室

3階 サークル活動室1～3

開館時間 4月～10月 午前10時～午後5時

11月 午前10時～午後4時

貸館 午前9時～午後5時

休館日 月曜日（祝日、休日にあたる月曜日は開館）、国民の祝日の翌日、12月～3月

<利用人数>

区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
見学者	1,579人	1,517人	1,759人
利用者	1,735人	1,555人	1,923人
合計	3,314人	3,072人	3,682人



市民プール（らくあ）

所在地 登別市幸町1丁目5番地2

(Tel. 0143-85-5588)

構造 鉄筋コンクリート造一部木造2階建

平成16年6月1日 開館

面積 建築3,039㎡ 延床3,500㎡

施設 1階 競泳用プール、多目的プール、
流水・歩行プール、リラクゼーションプール、トレーニングルーム、事務室、会議室、
休憩室 など

2階 研修室、キッズコーナー

開館時間 午前10時～午後9時

休館日 第1・第3月曜日及び年末年始

指定管理者 一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団

<利用人数>

区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
幼児	2,437人	3,058人	1,781人
児童生徒	23,353人	23,102人	22,878人
一般	43,337人	41,625人	37,915人
高齢者	45,275人	47,581人	47,793人
事業参加	4,285人	4,502人	4,376人
合計	118,687人	119,868人	114,743人



総合体育館

所在地	登別市若山町2丁目26番地1 (Tel 0143-85-5552)
構造	鉄骨造・鉄筋コンクリート造・ 鉄骨鉄筋コンクリート造3階建 昭和49年9月開館
面積	建築 2,164.48 m ² 延床 2,817.79 m ²
施設	1階 アリーナ、休憩室、事務室、 更衣室 2階 会議室、多目的ルーム 3階 観覧席
開館時間	午前9時～午後9時
休館日	年末年始
指定管理者	一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団



<利用人数>

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
大人個人	2,187人	5,336人	5,405人
児童生徒個人	1,973人	5,203人	6,382人
団体利用	18,764人	45,211人	46,949人
合計	22,924人	55,750人	58,736人
主な利用	バドミントン・バスケットボール・卓球・バレーボール・多目的ルーム		

陸上競技場

所在地	登別市千歳町3丁目1番地5 (Tel 0143-85-5552 総合体育館内)
開設	昭和48年11月開設
面積	28,587.27 m ²
施設	1周400m
使用時間	日の出から日没まで
休館日	なし
指定管理者	一般財団法人登別市文化・スポーツ 振興財団



<利用状況>

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
利用人数	13,397人	8,192人	3,963人
主な利用	こいのぼりマラソン・陸上トレーニング・マラソン・サッカー・ゲートボール・グランドゴルフ		

<<<学校給食センター>>>

(1) 学校給食事業

(平成30年5月1日現在)

栄養バランスのとれた給食を小・中学校
や保育所に調理・配送します。

小学校8校 2, 312人

中学校5校 1, 185人

北海道登別明日中等教育学校前期課程

252人

保育所4所 225人

給食センター職員等 31人



(2) 施設の概要

① 所在地 登別市千歳町3丁目1番地3

② 電話 0143-85-2723

③ FAX 0143-85-1479

④ <http://www.noboribetsu.ed.jp/~msc/msc/>

(3) 学校給食の役割

本市の学校給食は、学校における教育活動の一環として、児童生徒の心身の健全な発達に寄与することを目標に、全校で完全給食を実施している。

〔学校給食の目標〕(学校給食法)

- 日常生活における食事について、正しい理解と望ましい習慣を養うこと。
- 学校生活を豊かにし、明るい社交性を養うこと。
- 食生活の合理化、栄養の改善及び健康の増進を図ること。
- 食糧の生産、配分及び消費について正しい理解に導くこと。

(4) 食に関する指導

子どもたちが健全な心と体を培い、生きる力を身につけていくためには「食」が基本となります。しかし、食生活の多様化が進む中で、肥満、偏った栄養摂取、朝食欠食など子どもたちの食生活の乱れが深刻化する問題となっています。

子どもたちに望ましい食習慣を身につけてもらうため、また、健康についての意識がもてるよう、学校と連携を図りながら、様々な学習機会において、「食に関する指導」を実践しています。

◎ 給食指導のねらい

- ① 楽しく(正しく)会食すること
- ② 健康によい食事の取り方
- ③ 食事と安全・衛生
- ④ 食事と文化
- ⑤ 勤労と感謝

(5) 給食対象者数の状況 (平成30年5月1日現在)

対 象 者	人 数
小 学 校 児 童	2, 1 3 9人
中 学 校 生 徒	1, 3 2 6人
教職員・センター職員等	5 4 0人
合 計	4, 0 0 5人

(6) 給食費の状況

給 食 対 象 者		月 額
小学校児童・教職員		4, 1 6 0円
中学校生徒・教職員 給食センター職員等		4, 9 6 0円
試 食 会	小 学 校	(1食あたり) 2 7 0円
	中 学 校	(1食あたり) 3 2 2円

※ 中学校3年生 (3月分) 2, 4 8 0 円

(7) 給食内容

児 童 ・ 生 徒 ・ 教 職 員 等 給 食 セ ン タ ー 職 員 等	主食：パン、米飯 牛乳 温食：麺類、スープ類、煮物、汁物 副食：煮魚、天ぷら、フライ、サラダ類 デザート類
--	---

◎ 各種審議会委員等

1 登別市社会教育委員

(発足) 社会教育法第15条に基づき、昭和46年に「登別市社会教育委員に関する条例」を制定し、発足

(目的) ・社会教育に関して教育委員会に助言するため次の職務を行う。

(1) 社会教育に関する諸計画の立案

(2) 教育委員会からの諮問に応じ、これに対して意見を述べる。

(3) 前2項の職務のために必要な研究調査を行う。

・教育委員会の会議に出席して社会教育に関する意見を述べること。

(委員) 学校教育関係者、社会教育関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者から委嘱(15名以内)

2 登別市教育支援委員会

(発足) 昭和54年に「登別市就学指導委員会規則」を制定し、発足

(目的) 小中学校に就学する児童・生徒の心身の障がいの程度等の判断、教育相談及び就学指導について、教育委員会の諮問に応じ、調査及び審議し、その結果を答申する。

(委員) 医師、特別支援学級設置校校長、特別支援学級担任教諭、児童福祉関係者、学識経験者から委嘱(25名以内)

3 登別市学校給食センター運営委員会

(発足) 昭和41年に「登別市学校給食センター条例」を制定し、発足。

(目的) 学校給食用物資の購入、献立及び調理方法、並びに給食費の徴収方法その他給食センターの運営について、教育委員会の諮問に応じ、調査及び審議し、その結果を答申する。

(委員) 教育関係者、学識経験者から委嘱(10名以内)

4 登別市図書館協議会

(発足) 図書館法第14条に基づき、昭和47年に「登別市立図書館条例」を制定し、発足

(目的) 図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見陳述

(委員) 学校教育関係者、社会教育関係者、学識経験者から委嘱(5名)

- 5 登別市スポーツ推進委員会
(発足) スポーツ基本法第32条に基づき、平成23年に「登別市スポーツ推進委員会設置条例」に改正し、名称変更を行った。
(目的) スポーツの振興に関する事項についての調査審議及び建議等を行う。
(委員) 学校教育関係、社会教育関係に深い関心・理解を持っているスポーツ関係団体、スポーツ経験者から委嘱(15名)
- 6 登別市青少年会館運営委員会
(発足) 昭和44年に「登別市青少年会館設置条例」を制定し、発足
(目的) 青少年会館の運営に関し、教育委員会の諮問に応じ意見陳述
(委員) 体育団体、青少年団体、学識経験者から委嘱(5名)
- 7 登別市文化財審議会
(発足) 文化財保護法の規定に基づき、平成2年に「登別市文化財保護条例」を制定し、発足
(目的) 教育委員会の諮問に応じて、文化財の保存及び活用に関する専門的事項を調査審議し、これらの事項に関して建議する。
(委員) 学識経験者の中から委嘱(10名以内)
- 8 登別市青少年問題協議会
(発足) 地方青少年問題協議会法に基づき、昭和37年に「登別市青少年問題協議会設置条例」を制定し、発足
(目的) ・青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の樹立につき、必要な重要事項を調査審議する。
・青少年の指導、育成、保護及び矯正の関する総合的な施策の適切な実施を期するために必要な関係行政機関相互の連絡調整を図る。
・前項に関し、市長に対し意見を述べる。
(委員) 市議会議員、関係行政機関の職員及び学識経験者から委嘱(15名以内)
- 9 登別市重大事案対策委員会
(発足) いじめ防止対策推進法に基づき、平成29年に「登別市重大事案対策委員会及び登別市いじめ調査委員会条例」を制定し、発足
(目的) 市立小・中学校においていじめに係る重大事態の対処及び当該重大事態と同種の事態の発生の防止その他の教育委員会が必要と認める事項について調査審議する。
(委員) 教育、法律、精神保健、心理、人権擁護等に関する専門的知識及び経験を有する者から委嘱(5名以内)

◎ のぼりべつの文化財

(1) 国指定文化財

種 別	名 称	所在地	指定年月日	摘 要
天然記念物	登別原始林	登別温泉町	大正 13. 12. 9	北海道中帯南部の植物区系を代表する学術上貴重な天然林の保存を目的に指定された。

(2) 登別市指定文化財

種 別	名 称	所在地	指定年月日	摘 要
有形文化財	円空作観音像	登別温泉町	平成 5. 9. 2	寛文 6 年 (1 6 6 6)、美濃国の僧、円空上人が道南各地を巡錫しながら鉦作りというナター丁で観音像を刻み、そのうちの 1 体が当時権現沢に祀られていました。明治 4 4 年 (1 9 1 1) の山火事で一時行方不明となりましたが、現在は、地獄谷展望丘の一角に社を設けて安置されています。
	円空作聖観音像	登別温泉町	平成 5. 9. 2	円空作観音像が明治 4 4 年の山火事で行方不明となったため、当時登別温泉に在住で郷土史家だった故石川修次氏が、昭和 3 2 年、円空上人の中期多作時代の観音像 1 体を愛知県名古屋市中川区の荒子観音寺から入手し、その後昭和 4 0 年に観音山聖光院に奉安された観音像です。
	高村東雲作観音像	登別温泉町	平成 5. 9. 2	各像は故岩原菊次郎氏らを中心に登別温泉在住の人々が費用を募り、戦時中東京から栗山村に疎開中の三代目高村東雲に製作を依頼し、安置したものです。

有形文化財	日野愛憲の「明治2年以降片倉家北海道移住顛末」	片倉町	平成 5.9.2	この著書は、日野愛憲（当時50歳）が、片倉家の入植した明治2年（1869）から24年間のできごとをまとめたものです。片倉主従が厳しい自然環境に立ち向かい、数々の苦難を克服した史実を伝える登別市の貴重な開拓記録です。
	黒澤家史料	片倉町	平成 10.2.10	旧仙台藩白石城主片倉家の家臣、黒澤家に伝わる武家文書です。
民俗文化財	幌別鉦山獅子舞	鉦山町	平成 5.9.2	鉦山町で鉦山事業がはじまった明治39年（1906）から大正9年（1920）にかけて、宮城県出身者が郷里をしのんで行っていたものが取り入れられた獅子舞です。
記念物	登別化石林の炭化木（トドマツ）	片倉町	平成 29.2.1	昭和59年（1984）、北海道縦貫自動車道工事の際、「胆振団体研究会」により発見されました。発見された炭化木は、約43,580年前のクッタラ火山の噴火堆積物により形成されたものです。ウルム氷期中期の寒冷な気候の変遷の実態を明らかにし、北海道及び登別市の自然史とクッタラ火山の活動史を解明する上でも貴重な資料です。

（3）指定以外の文化財

種別	名称	所在地	指定年月日	摘要
有形文化財	念仏鬼像	登別温泉町		毎年8月に行われる「登別地獄まつり」の主役である赤鬼立像3.5m、青鬼立像2.2mの像に守られている小さな社（鬼祠）の中に江戸時代から伝わるという「念仏鬼像」が安置されています。
民俗文化財	鷺別子ども獅子舞	鷺別町		昭和50年12月、鷺別神社の改築されたのを機に、宮城県遠田郡涌谷町で若いころ獅子舞をしていた草岡久男氏が愛好会を結成し発足したのが始まりです。

民俗文化財	熊舞	登別温泉町		数百年前、けもの道しかなかった登別温泉の湯沼には熊やキツネなどの動物たちが薬湯につかっており、先人がこの地に初めて足を踏み入れたとき山中で熊に出会い、その熊の道案内で地獄谷にたどりついたという伝説にもとづいて、昭和56年、当時低迷していた登別観光の活性化、湯への感謝と千客万来の祈願を目的として、登別観光協会の全面的な協力のもと、新しく創作した郷土芸能です。
	北海自衛太鼓	緑町		昭和40年、地域との交流と隊員の士気高揚を図るために結成され、若さと力強さにあふれた自衛隊流にアレンジした打法は登別の名物として定着しています。
	幌別駒おどり	幌別町		開拓の力になった馬の活躍と、先祖の苦労に感謝する気持ちを後世に伝えるため昭和38年創作された郷土芸能です。
	湯鬼神かぐら	登別温泉町		地獄谷から鬼が出たという伝説にもとづき、泉源である地獄谷のお湯に対する感謝、湯の街の繁栄と旅人の安全を祈願して舞う郷土芸能で、昭和49年、若者達が自ら創作した郷土芸能です。
	子宝もちつき 舞い	登別温泉町		登別温泉町に湧く名湯「子宝湯」にちなんで、子宝安産・夫婦円満・家内安全を祈願して、昭和57年の「登別温泉湯まつり」から誕生した郷土芸能です。
	幌別鉦山溪龍 太鼓	鉦山町		夏に鉦山町で行われる「溪流まつり」で演奏するため、鉦山町に居住する若者達が平成9年にグループを結成し、演奏しています。

(4) 記念物・史跡

名 称	所在地	摘 要
題目石	登別温泉町	明治4年(1871)に伊達妙栄寺の開山である日進上人が墨で自然石にお題目を書いたものであるといわれています。今では判読することはできませんが、水を注ぐとわずかに墨痕をうかがうことができます。
薬師如来	登別温泉町	文久元年(1871)、火薬の原料として地獄谷から硫黄を採掘していた南部藩栃内氏の家臣善四郎の職人がお堂の下から湧いている温泉で目を洗ったところ眼病が治ったことから、そのお礼として寄進した石碑が安置されているのが薬師如来です。以来、湯治客から目の湯として伝承されてきました。
金成マツの碑	富浦町	金成マツは明治8年(1879)11月10日当時の幌別村に生まれました。明治26年にジョン・バチェラーの奨めにより函館聖公会の伝道学校(愛隣学園)で洋風教育を受け、キリスト教の布教活動を行いました。晩年は、登別に住み、ユカラをローマ字で筆録しました。
知里幸恵の墓	富浦町	知里幸恵は明治36年(1903)6月8日当時の登別村で生まれ、6歳の時祖母モナシノウクとともに、旭川に住む金成マツのところに移り住んでいます。モナシノウクは金田一京助から「最大の叙事詩人」と絶賛されたユカラの語り部です。幸恵は19歳で亡くなり、金田一京助により東京の霊園に埋葬されていましたが、昭和50年に現在の富浦墓地、金成マツの碑の隣に改葬されました。
知里真志保をはぐくんだ地	登別本町	明治42年(1909)現在の登別本町で生まれ、アイヌ語を学問として整え、アイヌ文化研究の基礎を確立した言語学者です。また、「アイヌ神謡集」で有名な姉幸恵も育てたこの地は、水と森に深く包まれたカムイユカラ発祥の聖地といえます。
馬事訓練所跡	中登別町	第2次世界大戦中、陸軍により「登別馬事訓練所」(現ユートピア牧場付近)が設けられ、軍人・民間人に対し馬事の訓練を行ったところです。

カモイワッカ	中登別町	カモイワッカとは「神の・水」という意味ですが、その昔、干ばつのためどの川の水もからからに乾いてしまったときに、ここだけは清水がこんこんと湧いていたことからこの名が付いたといわれています。
滝本金蔵人馬継立所の跡	登別本町	明治6年(1873)、札幌本道(現登別小学校の前の通り)で、自ら私財を投じ登別温泉への道路を整備、湯宿を開くなど登別温泉の開発に尽力した滝本金蔵が宿泊所を設け、人馬継立所として通送を行った場所です。
片倉景光屋敷跡	片倉町	片倉景光が明治40年(1907)12月、宮城県白石市に転居するまで住んだ邸宅のあった所です。
幌別会所跡	幌別町	幌別場所請負人の商い場である運上屋は文政5年(1822)、当時の場所請負人山田治兵衛によってこの地に設立され、支配人・通詞・帳場・番人などを置き宿泊所も設けられていましたが、蝦夷地が幕府直轄になるに伴い安政5年(1858)、幌別場所請負人岡田半兵衛により新しく会所も改築され、幕吏が常駐して幌別郡の司法行政も行った所です。
愛隣学校跡	幌別町	明治19年(1886)、函館から来往した英国人宣教師ジョン・バチェラーの力添えにより、明治22年9月10日、日曜学校を併設した私立愛隣学校が開設され、その建物があった場所です。
ジョン・バチェラー家跡	青葉町	明治26年(1893)に札幌に転居するまでの間、幌別を中心としてキリスト教の伝導に従事しました。その間、ルイザ夫人と召使いパラピタ夫妻及びその養女キンが生活していた木造の邸宅があった跡地です。ここを拠点として、馬に乗り遠くは日高方面へ布教に行っていたといわれています。
南部藩警衛番所跡	鷺別町	江戸時代末期、特にロシアの南下に対し幕府の命令を受けた南部藩が安政2年(1855)、箱館及び恵山岬からホロベツまでの海岸警備にあたり現在の室蘭市陣屋町に出張陣屋を置き、鷺別岬に警衛番所を設けました。追直遠見番所と共に沖を通る外国船を監視し、異変の際にはのろしを上げ、南部陣屋とホロベツ会所に急を知らせた所です。

片倉家家臣による鷺別開拓発祥の地	美園町	「胆振国幌別郡全図」によると、片倉家家臣がこの地に移住を計画したのは戸数 18 戸、長屋 1 戸、開拓畑反数 7 7 反四畝歩と記されています。「幌別郡之内鷺別屋敷図」には江戸期の道路を中心に黒澤源一郎・桐軍治・榛沢蔵松・杉山与一郎らの屋敷図が記載されています。この地 1 0 万㎡は明治 3 年（1 8 7 0）以降鷺別開拓の拠点になりました。
アフルルパル	登別本町	アフルルパルとは「あの世の入り口」といわれ、北海道にあるものの多くは横穴ですが、このアフルルパルは人為的に掘られたと考えられる堅穴です。名称や付随して語り伝えられている伝説や信仰から、祭祀関係の遺跡と考えられていますが、本来何であったかは分かっていません。
幌別鉦山旭鉦の跡	鉦山町	この鉦山はシノマンペツ（幌別川本流）の上流 5 キロにあり、明治 4 0 年（1 9 0 7）に含金品位の高い鉦石が発見されたため、金・銀・銅を目的として採掘した鉦石です。特に旭鉦は、北海道の重要な金属鉦山の一つとなりました。
幌別鉦山岩ヶ崎鉦の跡	鉦山町	岩ヶ崎鉦は明治 3 1 年（1 8 9 8）ごろに旭鉦に先がけて試掘され、明治 3 9 年から銅を目的として採掘が開始されましたが、第一次世界大戦後に旭鉦と同じく中止されました。現在は中に入ることはできませんが、岸壁に掘りぬいた坑道の跡がいくつかうかがうことができます。
銅製錬所の跡	鉦山町	北東の方に向かう鉦山林道の両側に銅の製錬所の跡があります。かつてエコイカオマペツ川の側には溶鉦炉があり、直径 1 メートル、高さ 6 メートルの 3 基を備え、また道路をはさんだ反対の山側にも 8 基の溶鉦炉があり、ここでは鉦石を製錬し製品を送っていました。
蔭の沢鉦山跡	鉦山町	この鉦山は鉦山町に向かう途中にあり、明治末期から大正初めにかけて銅の採掘が行われていたようですが、はっきりしたことは分かっていません。
江戸期の旧道「七曲り坂」	富浦町	松浦武四郎は弘化 2 年（1 8 4 5）以降蝦夷地をたびたび探検調査しましたが、東蝦夷日誌ホロベツ領に「坂口より九折を上る。十年前栈橋なりしが今は無く上り平地（小休所）下崖にて、下を臨めば白海岸を撃ち、西を臨めば白海岸を撃ち、西を眺めれば会所元（幌別）よりエトモ岬、内浦岳（駒ヶ岳）、その景恰も薩捶峠にて富峰（富士山）を見るが如し」とその景色を絶賛した所で、箱館奉行所役人や蝦夷警備の武士など多くの人々が通行した江戸期の旧道跡です。

(5) 記念碑

名 称	所在地	摘 要
東宮殿下大婚奉祝記念碑	登別温泉町	東宮殿下（後の大正天皇）のご結婚を記念して、街の有志たちが湯澤神社境内に建立しました。
頌徳碑・功労碑	登別温泉町	登別温泉の開拓・発展に大きな功績を残した滝本金蔵・栗林五朔翁らを讃えた碑です。滝本金蔵翁は登別温泉開拓の祖として、江戸時代に来泉し明治時代に活躍し、また栗林五朔翁は大正時代に温泉経営の近代化に尽力し偉大な足跡を残しました。
野宿の碑	カルルス町	オロフレ荘前の川淵にあり、明治22年（1889）、日野久橋が伐採樹種調査のためにこの地を訪れ、カルルス温泉を発見した際に一夜を過ごした場所です。
開湯二十五年記念碑	カルルス町	明治32年（1899）8月6日にカルルス温泉を開湯した日野久橋・市田重太郎の創業25年来の努力を讃え、その後のカルルス温泉発展を望んで建立されました。
功程碑	カルルス町	カルルス温泉開湯30年を記念して、開場当時からの道路開削などの記録がこの石碑に記されています。
開祖日野久橋翁功績碑	カルルス町	昭和3年7月8日、日野久橋夫妻の金婚式の祝いとともに、カルルス温泉の開祖者として尽力した久橋の功績をたたえ、地域の有志たちによって昭和3年6月10日に建立されました。
滝本翁記念碑	登別温泉町	湯澤神社境内に建てられ、「瀧川湯本翁命」の石碑と併設されています。
知里真志保の碑	登別本町	真志保は生前「故郷をしのび、海の見える丘に住みたい」というのが口癖だったといわれ、これを知った室蘭中学校同窓生が中心となり、太平洋と生まれ育った登別川をのぞむ丘に碑を建立しました。現在は登別小学校脇に建っています。
明治天皇記念碑	富浦町	明治天皇が北海道2回目の巡幸の時にこの地で休憩したのを記念して建立されたものです。
魚霊碑	富浦町	魚族の霊を慰めるために富浦町の漁民たちが中心となって寄付を募り、富浦漁港の船巻き揚げ場に建立した碑です。
ダム龍神	川上町	奥川上部落の住民たちが天地の恵みと土地の繁栄及び無災害を祈願して、西湖岸に守護神木塔を建立した碑です。
開拓記念碑	中央町	男爵片倉健吉をはじめ片倉家旧家臣で幌別に移住した人たちによって刈田神社境内に建立された碑です。
明治天皇御駐輦記念碑	中央町	明治天皇が北海道2回目の巡幸の時にこの地を視察したのを記念して建立された碑です。

奉祝大婚之碑（東宮殿下）	中央町	刈田神社境内に東宮殿下（後の大正天皇）の成婚式挙行を記念して建立された碑です。
堀孝太郎記念碑	中央町	堀孝太郎は明治22年（1889）から約20年間幌別小学校の校長を務め、謹厳な中にも慈愛にあふれた人柄で生徒にも尊敬され、登別の教育界に立派な足跡を残しました。
大正天皇御即位記念碑	中央町	大正天皇の即位を記念して建立された碑です。
開拓記念碑	鉦山町	幌別ダムの上流に蔭の沢鉦山跡があり、その上の平坦地に碑が立っています。
堀嘉国先生頌徳碑	鷺別町	堀嘉国は登別温泉小学校で7年、鷺別小学校で6年余り校長を務め、父孝太郎同様に慈愛にあふれた人柄だったので生徒から大変尊敬され、子どもの非は自分がいたらないからだといって自分を厳しく戒めたといわれている。
札内六拾年記念碑	札内町	札内地区の開拓60周年を記念して、現在の日本工学院北海道専門学校近くの道路沿いに建てられています。
明治天皇記念碑	鷺別町	明治天皇が北海道2回目の巡幸の時にこの地を視察したのを記念して建てられた碑です。

（6）歌碑・句碑

名 称	所在地	摘 要
高浜虚子の句碑	カルルス町 登別温泉町	札幌市で開催の全道ホトトギス俳句大会に出席する途中、昭和23年6月15日、高浜虚子・高浜利尾らが登別温泉に宿泊し、翌16日にカルルス温泉に吟行した後、登別温泉で虚子の歓迎句会が開かれたときに詠んだ句です。 地獄谷の舟見山遊歩道の中にも虚子の句があり、大正8年6月に旭川で開かれたホトトギス北海道全国大会のため来道した際の作品です。
吉田元利の歌碑	カルルス町	札幌の吉田元利が、東宮殿下（後の大正天皇）大婚の夏にカルルスの鈴木旅館の前にある楓の木が二本交差している（夫婦楓）さまを見て詠んだ歌です。
栗林加寿子の歌碑	登別温泉町	地獄谷の舟見山遊歩道及び登別ガーデンには、登別温泉発展の功労者である栗林五朔夫人加寿子の歌碑が4基あります。
臼田垂浪の句碑	登別温泉町	臼田垂浪は長野県に生まれ、大正4年に俳句誌「石楠」を創刊しました。昭和11年8月に来道の際、登別温泉に立ち寄って詠んだ句を弟子が碑を建立しました。
香葉句碑	登別温泉町	碑文は明治神宮の建設を記念して、と前書きがあり左側に細字の掘り込みが見られるものの、判別することはできません。

(7) 埋蔵文化財包蔵地

遺跡名	所在地	時代	摘要
鷺別1遺跡	鷺別町	縄文前期 ～晩期	縄文時代前期の円筒下層式、中期の円筒上層式及び余市式、後期の入江式、晩期の亀ヶ岡式土器が出土した遺跡です。貝塚を主体とする遺跡で、ハマグリを中心にホッキやホタテの貝殻も発見されており、登別の考古学調査はここを最初とします。
鷺別2遺跡	美園町	縄文中期	鷺別川左岸の河岸段丘に形成された遺跡で、土器片が発見されています。
鷺別3遺跡	鷺別町	アイヌ文化期	現在の透禅寺付近にあたり、かつて宅地造成工事の際、人骨・鉄刀・漆器片が発見され、アイヌ文化期の墳墓があったと考えられています。
富岸神社遺跡	富岸町	縄文中期 ～晩期	富岸川左岸の河岸段丘、緑陽中学校東側に形成され、縄文後期の入江式土器が出土しています。
富岸小学校遺跡	富岸町	縄文中期	標高約20mの富岸川右岸河岸段丘に形成された遺跡。縄文中期とみなされる遺物が出土しています。
富岸遺跡	富岸町	縄文早期 ～後期	富岸川左岸の河岸段丘から丘陵部の標高30～35mに形成された遺跡で、昭和55年の発掘調査では円筒下層式・円筒上層式・北筒式・余市式・入江式・堂林式などの土器5,510点が出土しています。縄文時代各期の遺物が出土していますが、中期・後期が主体の遺跡です。この遺跡と川上B遺跡からは魚の骨を土器の表面に回転させた「魚骨回転文土器」が出土しています。また、発見された「落とし穴」3基のうち1基は土層断面から縄文中期～後期にあたと推定されています。
亀田公園遺跡	富岸町	縄文中期 ～後期	標高47m～62mの南東向き緩斜面上に形成された遺跡で、北海道縦貫自動車道の建設に伴い昭和61年2,355㎡にわたり発掘調査が実施されました。縄文時代中期の集落跡で土器片・石器など総数731点の出土遺物や住居跡・囲いのない地床・炉跡などの遺構28基が発見されています。

川上A遺跡	桜木町	縄文後期 ～続縄文	幌別川の河岸に形成された遺跡で、続縄文期の恵山式土器が出土しています。土偶が1点付近から出土しています。
川上B遺跡	青葉町	縄文早期 ～後期	北海道縦貫自動車道登別・室蘭インターチェンジ付近のヤンケシ川右岸の河岸段丘上標高15～25mに形成された大規模な遺跡で、昭和55年から60年にかけて発掘調査が実施されました。登別では初の旧石器や中茶路式・円筒上層式・北筒式・余市式・入江式など縄文早期～後期にかけての土器約8万点が出土し、直径12mを越える大型住居跡など150の縄文中期末葉～後期前葉の住居跡や墓などの遺構が発見されています。雨の多い登別にあつて、縄文時代にも豪雨による土砂崩れが少なくとも2回は起きていたことがこの発掘調査で推定されています。この遺跡からは「北海道式石冠」と称されるすり石や「石刃鏃」というシベリア方面から伝わり登別が南限といわれる石器「耳飾り」などのアクセサリーも出土しています。また、出土した獣骨や魚骨からエゾシカ・サメ・サケ・ウグイなどが当時の食料源として捕獲の対象になったことがわかっています。
来馬チャン跡	片倉町	アイヌ文化期	幌別ダムの建設工事の際に破壊され、現存していません。内耳土器・チャン時代成立期頃の遺跡といわれています。
片倉遺跡	片倉町	縄文中期	幌別川左岸の河岸段丘に形成された遺跡で、円筒上層式土器が出土しています。幌別ダムのダムサイト建設中に大規模に破壊されたと考えられ、包蔵地と思われる部分は土取りされています。
来馬遺跡	片倉町	縄文中期	範囲1, 400㎡の遺跡ですが、詳細については分かっていません。
幌別遺跡	中央町	続縄文	来馬川の左岸に形成された遺跡で、恵山式の土器が出土しています。
山木1遺跡	常盤町		範囲2, 500㎡の遺跡ですが、詳細は分かっていません。
山木2遺跡	常盤町	縄文前期 ～中期	範囲2, 800㎡の遺跡ですが、詳細は分かっていません。
千歳1遺跡	千歳町	縄文前期 ～中期	岡志別川の河岸段丘に形成された遺跡で、円筒上層式・下層式土器や北海道式石冠などが出土しています。昭和56年、千歳6遺跡と平行して登別市教育委員会が調査を実施しました。
千歳2遺跡	千歳町	縄文早期 ～後期	札内台地の裾野に形成され、北海道式石冠、石鏃などが出土しています。また、北海道縦貫自動車道工事の作業所建設時には、縄文時代前期の竪穴式住居跡も発見されています。

千歳3遺跡	千歳町	続縄文	岡志別川右岸、札内台地の裾野に形成された遺跡で、恵山式土器が出土しています。
千歳4遺跡	千歳町	縄文早期～後期	札内台地の裾野、2つの小川にはさまれた丘陵の南向き斜面から低地にかけて広がる遺跡で、道道の改良工事に伴い昭和55年に発掘調査が実施されました。縄文中期の住居跡の床面から円筒上層式・北筒式・静狩式などこの時期の土器に混じって、東北地方北部で出土している縄文中期の最花式に似た土器がまとまって見つかり、貴重な研究資料となりました。
千歳5遺跡	千歳町	縄文前期～後期	岡志別川上流域左岸、札内台地の裾野に形成された遺跡で、昭和57・59両年度発掘調査が行われました。住居跡や北筒式・余市式・円筒上層式・煉瓦台、青竜刀形（中国の青竜刀に似た縄文時代の磨製石器で東北地方から渡島半島にかけて分布、刀としてではなく祭祀などに使われたと思われる）などの土器・石器とともに、「オロシガネ状石器」が出土しています。この「オロシガネ状石器」は毒草をすりつぶして狩猟に使った、という説や、表面が擦り減っていないので単に祭祀の道具として使われたという説などがありますが詳しくはわかっていません。また、石斧の原石や破片がたくさん出土していることからここで石斧を制作していたことも確認されています。縄文中期から後期までの遺物が多量に発見されたほか、縄文早期～後期の遺物も発見されており、定住的な生活があったことがわかります。
千歳6遺跡	千歳町	縄文中期	岡志別の森運動公園の北東の丘陵上に形成され、昭和56年度に発掘調査が実施されました。大・小の住居跡を含む堅穴34基や石囲炉1基などの遺構をはじめ、ノダップⅡ式土器、余市式土器が出土しています。縄文晩期を除く各期の遺物を出土していますが大きくわけて早期と中期後半～後期前半の二つの時期を中心にわずかずつ地点を替えながら集落を形成し生活が営まれていたと考えられています。
千歳7遺跡	千歳町	縄文中期	札内台地の裾野のごく狭い範囲に形成された遺跡で、円筒上層式土器や石器が出土しています。
トイチセコツ遺跡	登別本町	縄文中期	北海道縦貫自動車道工事の際に発見された「登別化石林」に近い丘陵頂上部にあります。
中登別遺跡	中登別町	縄文中期	ポンアヨロ川右岸の台地に形成された遺跡で、北海道縦貫自動車道登別東インター付近にあります。

若山町遺跡	若山町	縄文前期 ～中期	富岸川左岸の丘陵の先端に形成された遺跡。試掘調査により、縄文時代前・中期の土器や石器が発見されています。
アフルパル遺跡	登別本町	アイヌ文化期	蘭法華岬から続く平坦な海岸段丘上に形成されています。平面の形は30m×22mの楕円形を呈するすり鉢状のくぼ地で、底に向かって階段状になっています。知里真志保・山田秀三によってこの地に伝わる話が紹介されています。アイヌ文化の送りを考える上で興味深い遺構といえます。
千歳8遺跡	千歳町	縄文中期	岡志別川右岸の緩やかな斜面に形成された遺跡です。縄文土器のほかに石器も発見されています。
富岸川右岸遺跡	富岸町	縄文中期 ～後期	富岸川右岸の緩やかな斜面に形成された遺跡です。平成19年の発掘調査では、竪穴式住居跡が4軒、シカを捕獲するための落とし穴が379基発見されました。西胆振だけでなく、全道的にも非常に密度の濃い落とし穴の数であり、縄文時代の狩猟活動を考える上で貴重なデータを残しています。
キウシト遺跡	富岸町	縄文早期・中期・後期、続縄文	富岸川左岸の標高20～30mの海に向かって伸びる長尾根上に位置しています。遺跡の性格としては、住居跡や獣骨が混じる炉跡の検出や多くの土器や礫石器の出土から、集落跡であった可能性が高いと考えられます。しかし、狩猟用の落とし穴が発見されていることから、時期的に猟場として使用されていたことも想定されます。
ウキシマニシト遺跡	常盤町	縄文早期	来馬川と岡志別川にはさまれた細尾根の標高40m地点に位置します。 造成によりほとんど削平されていますが、土器が発見されています。
富岸川左岸遺跡	富岸町	縄文中～後期	富岸川左岸の標高54～64mの山の中腹に位置します。土器や石器、石製のアクセサリーが発見されています。富岸川右岸と関係がある集落跡と考えられます。
シンノシケウンオカシベツ遺跡	千歳町	縄文早～後期、擦文	岡志別の支流であるシンノシケウンオカシベツ川の微高地に位置します。市内で数少ない擦文時代の遺跡です。
シンケプシニナルカ遺跡	千歳町	縄文早～中期	岡志別川とその支流であるシンノシケウンオカシベツ川にはさまれた段丘の緩やかな斜面に位置します。 広い範囲で確認されており、標高の高い地点にまで広がる可能性があります。

登別市小中学校・高等学校統廃合校の沿革と校歌

1. 幌別鉾山小中学校

- 明治40年 5月 幌別尋常小学校付属幌別鉾山教授所として開校
 大正 4年 4月 幌別鉾山尋常小学校と改称
 昭和22年 4月 幌別鉾山小学校と改称
 昭和28年 4月 幌別鉾山中中学校を設置し、小学校に併置（幌別鉾山小中学校と改称）
 昭和33年12月 新校舎落成
 昭和49年 3月 閉校

校歌	
作詞	安達 保
作曲	安達 保
一、	四方めぐらす山々は 北斗の星とささやきて 大きく伸びよとのぞみいる 共にこたえんその希望 きたえて進むこの庭に
鉾山 鉾山	わが鉾山校
二、	星のひとみのまたたきは 幌別川の影宿し 久遠のしあわせねがっている 共に励まん人の道 学びて歩むこの庭に
鉾山 鉾山	わが鉾山校
	(昭和三八、三制定)

2. カルルス温泉小学校

- 大正12年 4月 登別温泉尋常小学校カルルス特別教授所として開校
 昭和12年12月 カルルス温泉尋常小学校と改称
 昭和22年 4月 カルルス小学校と改称
 昭和48年 6月 創立50周年記念式典
 昭和57年 3月 閉校

校歌	
作詞	飯田広太郎
作曲	千葉目出城
一、	みどりのしずく ぎんの水 もみじのしずく きんの水 小鳥も風も いつもきて ちとせの川は 流れてる きれいな町のカルルスの みんなの温泉小学校
二、	ちぎれてとぶは 白い雲 ふんわりうくは あかね雲 小鳥も風も いつもきて オロフレ岳は そびえてる ひらけて古い カルルスの みんなの温泉小学校
三、	げんきな声は 男の子 あかるい声は 女の子 小鳥も風も いつもきて まなぶたのしさ あふれてる ゆめの大きい カルルスの みんなの温泉小学校
	(昭和四八・一一制定)

3. 札内小中学校

明治33年 5月 幌別尋常小学校札内簡易教育所として開設
 大正 2年10月 児童の激減で同教育所閉校
 大正 5年 4月 幌別尋常小学校附属札内教育所として再開
 昭和15年 4月 札内尋小小学校として独立
 昭和24年11月 幌別中学校札内分校として設立認可、札内小学校に併置
 昭和29年 4月 札内中学校として独立し、札内小中学校に改称
 平成10年 3月 閉校

校歌	
校歌 柳沼牧羊 作曲 間島篤	一、 山が呼ぶ 山が呼ぶ ポントコ山のひかる雲 仲良くこぞって手を上げて 登ろう 希望の峰めざし みんなの学校 札内校 わが母校
二、 丘が呼ぶ 丘が呼ぶ 札内原野のかおる風 仲よくこぞって肩組んで 創ろう 理想のさとめざし みんなの学校 札内校 わが母校	三、 海が呼ぶ 海が呼ぶ 太平洋の白いなみ 仲よくこぞって腕ためて こごう平野の岸めざし みんなの学校 札内校 わが母校 (昭和四一、一制定)

4. 登別温泉中学校

昭和22年 5月 設立認可(3学級編成)登別温泉小学校に併置
 7月 開校となり、9月より正常授業
 昭和24年12月 登別温泉小学校隣地に木造校舎完成
 昭和53年12月 登別温泉町123番地に新校舎完成(現在、文化交流館「カント・レラ」)
 昭和54年 2月 開校30周年記念式典
 昭和58年 2月 愛鳥保護モデル校に指定される。
 平成 4年 6月 北海道知事より「愛鳥モデル校」として指定を受ける。
 平成10年10月 開校50周年記念式典
 平成16年 3月 閉校

校歌	
校歌 作詞 石森延男 作曲 久本成夫	一、 美わしき雲立ちのぼれ 日和山 仰ぐわれらのひとみにも 高き理想は かがやけり まことの世界 学びつつ きょうも進まん まっしぐらに
二、 風そよぐ桜が丘の 静けさは 思うわれらの 友情と 自由奉仕の 精神を 尊き行為 身に付けて あすも進まん ともどもに	三、 名にしおう いで湯の町と わがふるさとは 幸多く うたたわる 自然の恵み ゆたかなり 力あふるる このからだ いよよ育てん すこやかに (昭和二九、七制定)

5. 登別温泉小学校

明治33年 6月 登別温泉簡易教育所を開設
 明治37年 5月 登別尋常小学校付属湯の滝教育所開設
 大正 4年 4月 湯の滝尋常小学校と改称
 大正 7年 7月 新校舎完成し、登別温泉尋常小学校と改称
 昭和32年10月 新校舎完成。創立50周年記念式典
 昭和53年10月 創立70周年記念式典
 平成18年11月 創立100周年記念式典
 平成19年 3月 閉校

校歌	
一、わが日本の 誇りなる 清き温泉の 登別 みどりの峰に かこまれて 学ぶわれらは 幸あるこども	作詞 西條八十 作曲 明本京静
二、明るき心 強き意志 恩師の教え まもりつつ 学びの業に 体育に 励むわれらは 雄々しきこども	
三、窓べにあおぐ 日和山 のぼる煙の ひとすじに 祖国の栄え めざしつつ 進むわれらは 希望のこども	
四、世界の平和 きずかんと 伸びてたくまし 日本の 未来を担う 者はたれ われぞわれぞ 光栄あるこども (昭和一八、二制定)	

6. 登別高校

昭和23年10月 北海道室蘭高等学校（現室蘭栄高等学校）幌別分校として開校
 昭和27年11月 幌別高等学校（定時制）として独立
 昭和36年 4月 登別高等学校（全日制）として開校、定時制を併置
 昭和40年 4月 道立移管し北海道登別高等学校と改称
 昭和57年10月 全日制20周年・定時制30周年記念式典
 平成19年 3月 閉校

校歌	
一、シノピリカ カムイネモシリ 永久なる流れ 幌別の ほとりに佇ちて 思うかな この地拓きし 祖祖の 意志の理想は なお生きて 若きわれらの 胸にあり かくてこそ 香るなれ 鈴蘭の原野も共に われら行く手に 幸う如く ああ登別 登別高等学校 わが母校	作詞 伊馬春部 作曲 石丸 寛
二、シノピリカ カムイネモシリ 来馬オロフレ 幌別の 嶺嶺仰ぎ 謳うかな 雪に翠に また花に 姿かえつつ はぐくむは 若きわれらの命なり かくてこそ さやかなれ もるもろの鳥のこえごえ われら行く手 ことほぐ如く ああ登別 登別高等学校 わが母校	
三、シノピリカ カムイネモシリ 涯渺々の 太平洋 窓をのぞみて 誓うかな 産業地帯 その要 都市の未来を 創るもの 若きわれらの力なり かくてこそ 壮んなれ エネルギー 大地に満ちて われら行く手 導く如く ああ登別 登別高等学校 わが母校	
力 若さの力 われら若人 登別 幸あれ 栄えあれ 光あれ (昭和四〇、一〇制定)	

室蘭常盤学校幌別分校（現幌別小学校） 設立請願書

北海道における小学校の初期教育は開拓の歴史とその変遷をともした。開拓者が入植すると、神社を建てて学校を開設するのが最も普通の順序であった。最初は正式な学校教育としてではなく、共立教育所という郷学校を開いて子弟の教育を行った。幌別は士族移住地で、概して教養あるものが多く、精神主義を主としたから、とりわけ教育には積極的であった。幌別地区に入植した開拓者は、年を追って学齢児童が増加し、小学校設置が急がれ、次のような願書が明治十四年に出された。

幌別郡幌別村仮小学校設立ニ付御補助之儀願

教育之儀ニ付テハ毎回御達ノ趣モ有之、本郡ニ於テモ小学校ヲ設ケ教授支度ハ年来ノ素願ニテ其ノ方法等協議仕候ヘドモ、何分ノ貧弱之一寒村其ノ資金ノ出ル目途不相立、稍々資産アルモノ札幌及室蘭港ニ寄留致シ学校へ通学候ヘドモ其ノ他ハ皆教育ノ何物タルヲ弁ゼズ、此節ニ至リ旧土人ヲ含メテ四十余名ノ学令児童モ有之、無際限此姿ニテ歳月徒ニ過ル時ハ独り教育ノ趣意ニ戻ルノミナラズ、全郡ノ児童一丁字ヲ解スル能ハズ、普通ノ交際ヲモナス能ハザル段ニテ、父兄ノ義務モ不得歎息ニ堪ヘズ、今般一同評議寄付金募集百貳拾余円ヲ得、幌別村へ室蘭常盤学校ノ分校ヲ取立テ、常盤学校ニ級以上ノ生徒ヲ幌別へ交番派出シ教授ヲ受度入費概算候へバ学校ニ充ツベキ家屋ノ修繕、書籍器材ノ購入費其ノ他日々ノ諸経費ハ寄付金並ニ授業料ヲ以テ支弁可仕候ヘドモ、教員ノ食費ニ充ツベキ四円ノ金ハ毎月不足ヲ生ジ、折角寄付金モ集纏候際此不足金ノタメ興学志願水泡ニ属シ候ハ実ニ遺憾之至リニ奉存候間格別之御詮議ヲ以テ相当御補助下賜人民ノ宿願相達教育之道ニ進之候様被成下度、常盤学校教員安田貞謹へモ協議ノ上維持法調書相添此段私共総代ヲ以奉願候也

幌別郡総代人学校世話役

西 東 勇 吾

日 野 久 橘

明治十四年四月

開拓権大書記官 鈴木大亮殿

前書之通願出候ニ付奥印之上進達候也

幌別郡各村戸長 本 沢 直 養

願之趣聞届候事

但当分ノ内一カ年補助金三十六円ノ割、開業ノ日ヨリ可下度候条受取方常盤学校補助金ノ例ニ倣ヒ会計局へ可承合事

明治十四年五月十一日

※上の願書の学校世話役というのは、明治5年の学制に基づき住民から選ばれた役で、学校の新設・就学の勧誘をその任務とした。
※明治5年の1円は今のお金に換算すると4万5千円に相当した。

この請願により明治十四年六月十四日に今の幌別小学校が公立常盤小学校幌別分校として創立される。翌年の八月、今の鷺別小学校が公立常盤小学校鷺別分校として創立。同年十月、幌別分校が幌別小学校として独立するに伴い、幌別小学校鷺別分校となる。明治十九年、鷺別分校は戸数減少で廃校となり、同二十三年に再開される。
(昭和四十二年四月十五日発刊の「登別町史」より抜粋)

平成30年度 (平成29年度実績)

登別の教育
(資料編)

登別市教育委員会

目 次

I 総務グループ	1
II 学校教育グループ	2
III 社会教育グループ	10
IV 図書館	16
V 市内小学校一覧	17
VI 市内中学校一覧	17
VII 社会教育施設一覧	18

I 総務グループ

(1) 富岸小学校地下タンク FRP ライニング整備事業費 140 万円 4 千円

児童などが安心して学校生活を送ることができるよう、老朽化した埋設式タンクを FRP で内面コーティングを行いました。

(2) 小学校耐震化改修事業費 1,542 万 3 千円

児童などが安心して学校生活を送ることができるよう、地震に対して倒壊等の危険性がある小学校校舎の耐震改修及び外壁改修等の実施設計を行いました。

- ・幌別西小学校
- ・富岸小学校

(3) 鷺別小学校建替事業費 39,153 万 2 千円

耐震診断（2次診断）により、耐震性が確保されていないことが判明した鷺別小学校校舎の改築工事（Ⅲ期）等を行いました。

- ・鷺別小学校旧校舎解体工事
- ・鷺別小学校グラウンド整備・外構工事
- ・鷺別小学校グラウンド整備・外構整備物価調査会委託

(4) 西陵中学校校舎屋上防水改修整備事業費 697 万 7 千円

生徒などが安心して学校生活を送ることが出来るよう、老朽化した屋上防水の改修を行いました。

(5) 登別中学校便所洋式化改修整備事業費 1,122 万 2 千円

生徒などが安心して学校生活を送ることができるよう、便所を洋式に改修を行いました。

(6) 登別中学校耐震化改修事業費 12,695 万 4 千円

生徒などが安心して学校生活を送ることができるよう、地震に対して倒壊等の危険性がある中学校校舎の耐震改修及び外壁改修等の工事を行いました。

- ・登別中学校校舎耐震改修・外壁改修工事
- ・登別中学校校舎屋根改修工事
- ・登別中学校渡り廊下改築工事

Ⅱ 学校教育グループ

(1) 不登校・いじめ等対策経費 17万1千円

- ・教育相談・いじめ相談…専門相談員を2人配置し、電話や来室による相談を受けました。(月～金曜日の9時～17時)
- ・不登校・いじめ等対策会議…校長会や教頭会の代表、小中学校教諭、教育委員会(青少年センターを含む)などで構成される同会議を年2回開催しました。

【学校訪問や実態調査の実施】

- ・『いじめ学習資料』の配布…小学5年生、中学1年生。
- ・保護者向け広報誌『手をつなぐ親と子』の発行…幼稚園や小中学校の家庭を対象に発行。
- ・教職員(幼稚園、小中学校)を対象とした研修会…年2回開催。
- ・不登校児童生徒をかかえる保護者懇談会…不定期開催
- ・ふれあいサポート懇談会…指導體制・実態についての情報交換や、自然体験学習・宿泊交流学习などの実施、スクールカウンセラーの活用についての協議を行う同懇談会を年2回開催。また、各中学校区の地区別交流会を年2回開催。
- ・登別市小・中・高等学校合同生徒指導担当者(部長)連絡会議…年1回開催。
- ・登別市小学校及び中学校生徒指導担当者(部長)連絡会議…年2回開催。
- ・登別市中学校・高等学校合同生徒指導担当者(部長)連絡会議…年2回開催。

(2) スクールカウンセラー活用事業費 4万4千円

小中学校におけるいじめや不登校などの問題行動について、児童生徒等の相談に対応するため、臨床心理士などの専門家を学校に配置し、カウンセリング体制の充実を図りました。

配置校(拠点方式) 幌別中学校、鷺別中学校、緑陽中学校

(3) 心の教室相談員活動経費 13万9千円

生徒たちの不安やストレスなどを和らげ、心のゆとりを持てるよう、友人関係や進路、親子関係、登校拒否などについての相談を相談員が受けました。

配置校 幌別中学校、西陵中学校、鷺別中学校、緑陽中学校

(4) スクールソーシャルワーカー活用事業費 1万7千円

学校だけでは対応しきれない、不登校など生徒指導上の問題解決に向けた校内体制の確立を図るため、教育委員会に2名のスクールソーシャルワーカーを配置し、必要に応じて小中学校へ派遣しました。

(5) 児童生徒健康診断等経費 1,741万1千円

市内の小中学校の児童・生徒の健康管理のため健康診断を行いました。

(6) 学校医等表彰経費 3万円

長年にわたり当市市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師として、児童・生徒等の健康の保持増進と保健教育の振興に貢献したものに対し、その功績を称えました。

(7) 中学校体育連盟助成金 140万0千円

中学校の体育を振興し、健康なスポーツを通して、生徒の健康増進や生徒間交流を図るため、各種大会を主催する中学校体育連盟に助成金を交付しました。

(8) 外国青年招致経費 1,806万0千円

生きた英語を指導する外国語指導助手（ALT）を活用し、英語を使ったコミュニケーション能力の育成などを図りました。

(9) 特色ある学校づくり推進経費 427万0千円

- ・ **登別温泉入浴体験**…市内の小学3年生を対象に、登別温泉入浴体験を行いました。
- ・ **総合的な学習活動の研究推進**…自由な学習環境の中で学ぶ総合学習の推進を図りました。
- ・ **生活科の実施**…児童の健やかな成長を育むため、小動物の飼育や学校菜園を通して、命の尊さや自然に親しむ心の育成を図りました。

(10) 特別活動推進経費 275万3千円

児童会やクラブ活動、部活動などを通して、児童生徒による自主的・実践的な活動を助長しました。

(11) 自然体験学習推進経費 128万9千円

児童・生徒が宿泊研修や炊事遠足などの自然体験学習を行いました。

(12) 小中学校情報教育推進事業費 3,357万0千円

高度情報通信ネットワーク社会の進展に対応し、児童生徒がパソコンなどの情報通信機器を使い、様々な情報を主体的に選択・活用することができる能力の育成を図りました。

(13) コミュニティスクール活動支援事業 63万6千円

今日の学校が抱える様々な課題を解決するために、市内小中学校が設置したコミュニティスクールの活動を支援することで、保護者・地域住民の意見が学校運営に反映される、地域とともにある学校づくりの推進を図りました。

(14) 児童生徒遠距離通学費補助金 202万8千円

バスで通学する小・中学生の保護者の経済的負担の軽減を図るため、補助金を交付しました。

(15) スクールバス・スクールタクシー運行経費 1,158万8千円

児童・生徒の通学の安全を確保するため、札内・来馬方面から幌別小学校と幌別中学校へスクールタクシーの運行、カルルス・上登別・登別温泉・中登別方面から登別小学校へスクールバスを運行しました。

(16) 特別支援教育振興費 36万2千円

心身に障がいのある児童・生徒の能力と個性を伸ばし、将来における社会人としての自立と社会参加を促すため、特別支援教育指導内容の研究と実践を図りました。

(17) 特別支援教育就学奨励費 233万2千円

特別支援学級に就学しているという特殊事情を鑑み、保護者の経済的負担を軽減するため、必要な費用を援助しました。

就学奨励費の支給内容（平成29年度・年額）

（単位：円）

区分		小学校	中学校	支給経費の内容
入学準備金	1年	10,235	11,775	小学校又は中学校に入学する者が通常必要とする学用品及び通学用品
学用品費 通学用品費		5,710	11,160	各教科及び特別活動に必要とされる学用品（実験、学習材料費を含む。）及び通学のための通常必要とする上ばき、雨ぐつなどの通学用品の経費。学校行事としての校外活動（遠足など）に参加するための経費
修学旅行費		限度額 10,590	限度額 28,335	小学校又は中学校でそれぞれ1回参加する修学旅行費（対象経費内）

学校給食費	24,960	1・2年 29,760 3年 28,520	学校給食に要する経費
区分	小学校	中学校	支給経費の内容
体育実技用具費	13,010	—	保健体育の授業の実施に必要な体育実技用具（スキー、小1・4）
校外活動費（宿泊）	限度額 1,810	限度額 3,050	学校行事として宿泊校外活動に参加する場合の経費（小5・中2）
校外活動費（宿泊無）	限度額 785	限度額 1,135	学校行事としての校外活動（遠足など）に参加するための経費
通学費	実費額		最も経済的な通常の経路と方法によって通学する場合の交通費（片道の通学距離が小学校4km以上、中学校6km以上）

就学奨励費の状況（過去5ヶ年の推移）

（単位：人・千円）

区分		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校	実施人員	31	32	34	30	41
	決算額	875	1,137	1,092	958	1,445
中学校	実施人員	14	18	15	21	17
	決算額	679	970	787	1,150	887
計	実施人員	45	50	49	51	58
	決算額	1,554	2,107	1,879	2,108	2332

(18) 特別支援教育推進経費 179万8千円

心身に障がいのある児童生徒の教育的ニーズを踏まえて、学習に必要な備品・物品等を購入しました。

(19) 言語障害通級指導教室運営経費 72万3千円

言語治療を必要とする幼児・児童を対象に、ことばの教室を開設し、言語障がい児教育の充実・伸展を図りました。

通級指導校設置状況（平成30年5月1日現在）（単位：人）

区分	障がい区分	児童数	学年別内訳						幼児部の児童	職員数
			1	2	3	4	5	6		
幌別小学校	言語	63	10	15	13	8	11	6	27	小学3 幼児2
鷺別小学校	言語	26	6	4	6	7	2	1	7	小学2 幼児2

(20) 教育研究会運営事業補助金 60万0千円

職務遂行上、必要な専門知識の向上を図るため、教職員自ら教育のあり方を研究している登別市教育研究会の運営を支援しました。

(21) 教育実践研究奨励等経費 27万5千円

市内小・中学校の教育レベルを高めるため、実践奨励校ごとに研究主題を定め、その成果を公開研究会で発表するとともに、定期的に報告書を作成しました。

(22) 学校図書館システム広域化事業 24万9千円

「定住自立圏形成協定に基づく連携事業」として、学校図書館システムを共同利用し、セキュリティの強化及び運用の効率化・安定化を図りました。

(23) 情報教育システム広域化事業 605万4千円

「定住自立圏形成協定に基づく連携事業」としてシステムの管理及び運用の共同化を事業化し、セキュリティの強化及びシステム運用の効率化・安定化を図りました。

(24) 学校図書館司書配置事業費 8万6千円

学校図書館司書を配置し、多様な読書活動の企画を行うなど、学校図書館の機能向上及び児童の読書習慣の定着を推進しました。

(25) 要保護・準要保護児童生徒就学援助費 6,716万9千円

小・中学生が学用品費や給食費などの心配をすることなく義務教育が受けられるよう、児童・生徒の保護者に必要な援助を行いました。

(平成29年度・年額)

区分		小学校	中学校	支給経費の内容
入学準備金	1年	40,600	47,400	小学校又は中学校に入学する者が通常必要とする学用品及び通学用品
学用品費 通学用品費	1年	11,420	22,320	各教科及び特別活動に必要とされる学用品（実験、学習材料費を含む。）及び通学のための通常必要とする上ばき、雨ぐつなどの通学用品の経費
	2年 ～ 6年	13,650	24,550	
修学旅行費		実費額		小学校又は中学校でそれぞれ1回参加する修学旅行費（対象経費内）
学校給食費		49,920	1・2年 59,520 3年 57,040	学校給食に要する経費
体育実技用具費		現物支給		保健体育の授業の実施に必要な体育実技用具（スキー、小1・4）

校外活動費（宿泊）	限度額 3,620	限度額 6,100	学校行事として宿泊校外活動に参加する場合の経費（小5・中2）
校外活動費（宿泊無）	限度額 1,570	限度額 2,270	学校行事としての郊外活動（遠足など）に参加するための経費
通学費	実費額		最も経済的な通常の経路と方法によって通学する場合の交通費（片道の通学距離が小学校4km以上、中学校6km以上）
医療費	学校病治療に要した経費 （社会保険等の給付額を控除した額）		就学援助を受ける児童・生徒が、伝染病又は学習に支障を生ずるおそれのある疾病（学校病）の治療に要する費用 学校病～トラコーマ、結膜炎、白せん、疥せん、膿痂疹、中耳炎、慢性副鼻腔炎、アデノイド、う歯、及び寄生虫病（虫卵保有含む）
P T A会費	限度額 3,380	限度額 4,190	学校に納入するP T A会費

就学援助の状況（過去5ヶ年の推移）

（単位：人・千円）

区 分		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校	認定人員	456	438	456	459	470
	支給人員	435	418	430	439	438
	決算額	28,692	29,474	31,113	31,540	33,716
中学校	認定人員	267	277	278	266	284
	支給人員	247	268	253	246	266
	決算額	24,681	28,908	28,847	28,675	33,453
計	実施人員	723	715	734	725	754
	支給人員	682	686	683	685	704
	決算額	53,373	58,382	59,958	60,215	67,169

※ 認定人員は、年度末の認定人員数（準要保護＋要保護）

※ 支給人員は、当該年度の実支給人員数（準要保護+要保護修学旅行参加者）

（26）姉妹都市小中学校交流事業

市内の小中学生が、姉妹都市である宮城県白石市・神奈川県海老名市の小中学生と学校間交流を行い、互いのまちの歴史を学び交流を深めました。

※ 予算はその都度、総務費から補助金方式で対応

(27) 教育支援委員会 122万0千円

登別市では、専門家の意見を聞くなどして、適切な就学指導を行うことができるよう、医師・学識経験者・教育職員・児童福祉施設の職員からなる教育支援委員会を設置し、心身の障がいの種類・程度等に関する調査・審議を行いました。

特別支援学級設置状況（小学校）（平成30年5月1日現在）

	障がい 区 分	学級数	児童数	学 年 別 内 訳						職員数	介助員数
				1	2	3	4	5	6		
幌別小学校	知 的	1	1					1		4	0
	自閉情緒	1	3					2	1		
	肢 体	1	1				1				
幌別西小学校	知 的	1	4		2	2				5	0
	自閉情緒	2	9		2	2	2	2	1		
幌別東小学校	知 的	1	2		1			1		2	0
	自閉情緒	1	3		1	2					
青葉小学校	知 的	1	3	1		1			1	2	0
	自閉情緒	1	4	1	1	1			1		
鷺別小学校	知 的	1	3		1		1		1	6	1
	自閉情緒	1	7		1		3	1	2		
	肢 体	1	2				2				
若草小学校	知 的	1	4		4					2	3
	自閉情緒	1	5	1		1	1	1	1		
登別小学校	知 的	1	2				1	1		2	1
	自閉情緒	1	3			1		1	1		
富岸小学校	知 的	1	5	2	1	1			1	4	1
	自閉情緒	1	5		1	1		2	1		
	肢 体	1	1		1						
合 計	知 的	8	24	3	9	4	2	3	3	27	6
	自閉情緒	9	39	2	6	8	6	9	8		
	肢 体	3	4	0	1	0	3	0	0		

特別支援学級設置状況（中学校）（平成30年5月1日現在）

	障がい 区 分	学級数	生徒数	学年別内訳			職員数	介助員数
				1	2	3		
幌別中学校	知的	1	2		1	1	3	0
	自閉情緒	1	2	1		1		
西陵中学校	知的	1	3	1	1	1	3	0
	自閉情緒	1	1		1			
鷺別中学校	知的	1	6	2	2	2	4	1
	自閉情緒	1	4	4				
	肢 体	1	1			1		
登別中学校	知的	1	2	1	1		3	0
	自閉情緒	1	2		1	1		
緑陽中学校	知的	1	5	1	1	3	3	1
	自閉情緒	1	4	1	3			
合 計	知的	5	18	5	6	7	16	2
	自閉情緒	5	13	6	5	2		
	肢 体	1	1	0	0	1		

障がい区分別児童・生徒数（平成30年5月1日現在）（単位：人）

区 分	児童・生徒数	小 学 校	中 学 校
知的	42	24	18
自閉・情緒	52	39	13
肢体不自由	5	4	1
合 計	99	67	32

Ⅲ 社会教育グループ

(1) 放課後子ども教室推進事業費 340万8千円

放課後に子どもたちが安全・安心して過ごせる居場所をつくり、地域の方の協力を得て様々な体験活動や交流活動などを推進しました。

(2) 胆振女性リーダー養成研修経費 4万9千円

胆振管内社会教育共同事業として、女性教育の振興等を活動目的としている国立女性教育会館が開催するワークショップに地域で活動している女性を派遣し、女性リーダーの育成を図りました。

(3) 通学合宿 みんなで学ぶ「子ども村」181万8千円

小学生（5～6年生）が、ネイチャーセンターで支援ボランティアの協力を得て共同生活をし、自然体験や学習活動を行いながら学校へ通う「通学合宿」を実施しました。
期日 5月～11月（1回当たり4泊5日） 定員 40名×3回

(4) ネイチャーセンター運営管理経費 3,945万0千円

宿泊型の自然体験学習施設「登別市ネイチャーセンター『ふおれすと鉱山』」において、人と自然のふれあう場として、指定管理者であるNPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらすの運営管理のもと、自然環境に調和したさまざまな体験活動を実施しました。

(5) 市民生涯学習推進講座経費 62万1千円

・**登別ときめき大学**…社会、経済、自然、歴史、文化など、他分野にわたる知識を学ぶ場を提供するとともに、まちづくりを担う人材を育成するため「登別ときめき大学」を開校しました。

平成29年度の学生数は87人です。

・**家庭教育学級**…家庭での教育力の向上のため、幼稚園児や小学生をもつ保護者が家庭教育に関する学習会などを自主企画する『家庭教育学級』を12学級（私立幼稚園4学級、小学校8学級）開設し、年間38回の学習会と、全体学習会を年2回開催しました。

・**市民マイプラン講座**…市内の団体が、自主的に行う学習会に対し講師を派遣し、市民の学習意欲を喚起することで生涯学習の推進を図りました。（1団体年度1回）

(6) 公民館運営管理経費 109万3千円

市内3カ所の公民館の運営管理を行いました。

公民館名	住 所	電話番号
登別温泉公民館	登別温泉町17	84-3365
登別公民館	登別東町2丁目21番地1	83-3265
鷺別公民館	鷺別町3丁目3番地4	86-8823

**(7) 教育施設運営管理委託料 (市民会館・鷺別公民館・総合体育館・陸上競技場)
6,356万2千円**

市民の健全な心身の育成を図るため、施設の運営管理を指定管理者である一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団に委託し、市民が活発に文化・スポーツ活動を行うことのできる環境を整えました。

(8) 市民会館整備事業費 899万7千円

市民が安全・安心に文化活動を行うことができる環境の整備を図るため、設備の改修を実施しました。

(9) PTA連合会助成金 30万0千円

小・中学校と高等学校等のPTAで構成される登別市PTA連合会が行う研究大会及び研修会、広報紙発行等の活動経費を助成し、教育の充実発展や家庭の教育力向上を図りました。

(10) 学校支援地域本部事業 276万4千円

地域教育力の向上を図るため、学校・家庭・地域が連携しながら、地域の特色を活かした学校支援事業を実施しました。

(11) 青少年育成指導経費 62万5千円

青少年センターを運営し、青少年非行や犯罪被害等の未然防止を図り、青少年が健やかに育つ環境を構築しました。

(12) 成人祭経費 23万1千円

新成人が大人としての自覚をもち、意識の向上を図るため、登別市成人祭実行委員会を中心に成人祭を開催しました。

(13) 少年の主張大会経費 2万7千円

中学生が、日常生活や学校生活の中で日ごろ考えていることなどについて発表する少年の主張大会を開催しました。

(14) 子ども会活動振興助成金 83万0千円

子どもたちの健全育成のために活動する、登別市子ども会育成連絡協議会に対して活動経費を助成し、子どもたちの「生きる力」と健全な心身の育成を図りました。

(15) 西いぶり定住自立圏文化事業負担金 90万6千円

市民がより質の高い文化に触れる機会を設けることにより、地域文化の振興を図りました。平成29年度は、室蘭市が主管し、「札幌交響楽団 室蘭公演」を実施しました。

(16) 児童・生徒文化振興助成金 49万3千円

市内の小・中学校、高等学校等に通う児童生徒又は市内に居住する児童生徒が、全国大会及び全道大会に参加する場合に要する経費の一部を助成し、父母等の経費負担の軽減と、児童生徒の文化の振興を図りました。

(17) 文化振興助成金 80万0千円

地域に根ざした文化振興活動を行う文化団体を支援することにより、市民が文化に親しむことのできるまちづくりの推進を図りました。

加盟団体数 平成29年度 29団体

(18) 登別市文化・スポーツ振興財団運営補助金 1,095万3千円

登別市の文化・スポーツの振興を図るため、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団の運営に係る経費を補助しました。

(19) 登別市文化・スポーツ振興財団事業補助金 488万7千円

一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団が行う、文化振興事業やスポーツ振興事業などの実施に要する経費の一部を補助しました。

(20) 郷土資料館運営管理経費 242万3千円

郷土に関する資料を市民に供することにより、ふるさと登別を愛する心を育てることを目的に、郷土の歴史、民俗、産業、文化に関する資料を収集、保管、展示しました。

(21) 文化財保護経費 21万0千円

郷土を形作る文化財の保護と活用を図ることにより、ふるさと登別に対する理解を深め、大切にすることを養いました。

(22) 文化伝承館運営管理経費 31万6千円

郷土の歴史や文化を伝承することにより、市民の教育・文化の向上を図りました。

(23) のぼりべつ文化交流館運営管理経費 325万7千円

埋蔵文化財に接する機会を設けることにより、郷土に対する理解を深めるとともに、作品展示の場を設けることで市民の文化活動を推進しました。

(24) 体育協会助成金 80万0千円

スポーツの振興を図る登別市体育協会の活動を支援しました。

加盟団体数 15団体

(25) 生涯スポーツ振興及びスポーツ関連団体の育成経費 46万7千円

生涯スポーツの振興と健康増進や体力向上を図るため、市民ラジオ体操会や市民スポーツ・健康フェスティバル等のスポーツイベントを実施しました。

(26) スポーツ少年団育成助成金 50万0千円

リーダー養成事業や競技別交流会などを行う登別市スポーツ少年団本部の活動を支援しました。

(27) 児童生徒スポーツ振興助成金 228万1千円

市内の小・中学校、高等学校等に通う児童生徒及び市内に居住する児童生徒が、国際大会、全国大会及び全道大会に参加する場合に要する経費の一部を助成し、父母等の経費負担の軽減と児童生徒のスポーツ活動の推進を図りました。

(28) スポーツ推進委員会経費 40万5千円

スポーツ行事への参画や軽スポーツなどの普及活動を行うスポーツ推進委員の活動を支援しました。

委員数は15人で、スポーツ活動での指導や市民ラジオ体操会等を運営しました。

(29) 6市町スポーツ交流会事業費 14万0千円

小学生のスポーツ交流を推進することにより、児童の健全育成を図るため、西胆振定住自立圏（登別市・室蘭市・伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町）の子どもたちを対象としたスポーツ大会の開催を支援しました（会場：室蘭市入江運動公園陸上競技場）。

(30) 学校開放事業費 5万1千円

スポーツ活動の普及及び振興を図るため、市内小・中学校等の屋内運動場を市民へ開放しました。

開放する小学校（8校）

開放する中学校（1校）

のぼりべつ文化交流館カント・レラ（旧登別温泉中学校）

開放期間 4月～2月（カント・レラは11月まで）

学校開放状況の推移

区 分	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
開放校数	10	10	10
利用人員	24,370	23,195	21,061
開放回数	1,510	1,197	1,130

(31) 青少年会館運営管理経費 1,084万9千円

市内2カ所の青少年会館を運営管理し、レクリエーション活動等を推進することにより、青少年の健全な育成を図りました。管理業務は、(公社)登別市シルバー人材センターに委託しました。

青少年会館名	住 所	電話番号
登別市青少年会館	中央町5丁目21番地12	85-3107
富岸青少年会館	富岸町2丁目23番地15	86-2449

(32) 市民プールバスパック業務委託料 1万0千円

市民プールの利用増加を図るため、路線バス運賃とプール入館料をセットにした『バスパック』の販売を行いました。

販売業務は、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団に委託しました。

(33) 市民プール運営管理経費 6,243万1千円

市民プールの運営管理を指定管理者である一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団に委託し、施設管理の他、各種水泳教室・運動教室などの実施を通じて市民の健康増進と余暇の健全な活用を図りました。

(34) 市民プール整備事業 669万6千円

市民が安全・安心にプールを利用できるよう、施設環境の改善を図るため、日常点検や定期点検の結果などを踏まえ、設備等の改修を実施しました。

(35) 子ども健康・体力改善事業費 550万6千円

子どもたちの健康増進と運動能力の向上を図るため、特定非営利活動法人おにスポへの委託により、全小学校の体育授業等にスポーツ指導員を派遣し、教員と連携した運動指導や教員の補助等を実施しました。

(36) 岡志別の森運動公園等運営管理経費 1,357万0千円

岡志別の森運動公園及び川上公園(Bゾーン)の運営管理を指定管理者である北海道曹達株式会社幌別事業所に委託しました。

(37) 2020東京オリパラで夢を育むスポーツ推進事業 91万8千円

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを契機として、子どもたちの夢を育み、スポーツの活性化を図ることを目的に、講演会や実技指導等を実施しました。

IV 図書館

(1) 図書館運営管理経費 921万5千円

図書館資料の整備と読書推進事業の実施、配本所の機能強化に努めることにより、市民の教育文化の向上に寄与することを目的とします。

(2) 移動図書館車運行業務委託料 508万7千円

市民が地域で図書館サービスを利用できる環境を整えることにより、市民の教育文化の向上を図ることを目的とします。

(3) 図書館ネットワークサービス広域化事業費 63万6千円

近隣市との図書館相互利用を可能とすることにより、市民が図書館を利用しやすい環境を整えることを目的とします。

(4) アーニス分館運営管理経費 584万0千円

図書館アーニス分館を運営することにより、図書等の充実、バリアフリー化、夜間及び祝日の開館による利便性の向上を図ることを目的とします。

(5) ブックスタート・ライブラリースタート事業費 87万0千円

本にふれる機会を提供することにより、乳幼児の読書意欲の向上と図書館の利用を促進することを目的とします。

(6) 移動図書館車更新事業費 1,198万3千円

移動図書館車を更新することにより、市民が地域で図書館サービスを利用できる環境を整えることを目的とします。

(7) 施設の概要

- ① 所在地 登別市中央町5丁目21番地1
- ② 電話 0143-85-4324
- ③ FAX 0143-85-4325
- ④ <http://www.noboribetsu.ed.jp/~iinkai/library/index.html>
- ⑤ 開館時間 10:00～18:00（木曜のみ19:30）
- ⑥ 休館日 月曜日、国民の休日（月曜日の場合は翌日）、年末年始、
図書整理日（月の最終金曜日）、特別整理期間（年間7日以内）

(8) 分館・配本所

- ① アーニス分館
所在地 登別市中央町4丁目11番地 アーニス内
電話 0143-81-2182
- ② 鷺別配本所
所在地 登別市鷺別町3丁目3番地4 鷺別公民館内
電話 0143-86-8823
- ③ 登別配本所
所在地 登別市登別東町3丁目6番地7 婦人センター内
電話 0143-83-1131
- ④ 登別温泉配本所
所在地 登別市登別温泉町58番地1 登別温泉ふれあいセンター内
電話 0143-84-2068

V 市内小学校一覧

平成30年5月1日現在

学 校 名	所在地	電話	学級数	児童数	通 学 区 域
幌別小学校 明治14年6月14日開校	中央町 6-19-1	85-2521	13	255	中央町、常盤町、千歳町、 来馬町、札内町
幌別西小学校 昭和27年6月1日開校	片倉町 5-13	85-2364	15	310	富士町、新川町、片倉町、柏 木町、川上町、鉾山町
登別小学校 明治25年8月10日開校	登別本町 3-25-2	83-1014	8	152	登別温泉町、上登別町、カルス町、登 別本町、登別東町、登別港町、富浦 町、札内町381番地、中登別町
鷺別小学校 明治23年4月1日開校	鷺別町 4-36-21	86-7011	15	289	鷺別町、栄町1丁目・2丁目
富岸小学校 明治29年5月1日開校	富岸町 2-17-4	86-6303	19	462	新生町、富岸町、若山町3・4丁目、 栄町3・4丁目、大和町2丁目
幌別東小学校 昭和45年4月1日開校	幌別町 8-16-1	85-3532	8	81	幌別町、幸町、新栄町
若草小学校 昭和46年4月1日開校	若草町 1-1-2	86-7513	14	304	美園町、若草町、上鷺別町
青葉小学校 昭和52年4月1日開校	青葉町 3-3	85-1477	13	286	緑町、桜木町、青葉町、大和町1 丁目、若山町1・2丁目

VI 市内中学校一覧

平成30年5月1日現在

学 校 名	所在地	電話	学級数	生徒数	通 学 区 域
幌別中学校 昭和22年5月1日開校	千歳町 3-1-3	85-3111	8	195	幌別小学校、幌別東小学校 の通学区域
鷺別中学校 昭和22年5月1日開校	鷺別町 4-36-6	86-7950	12	304	鷺別小学校、若草小学校の 通学区域
登別中学校 昭和22年5月1日開校	登別本町 1-1-1	83-1029	5	76	登別小学校の通学区域
西陵中学校 昭和49年4月1日開校	片倉町 5-12-1	85-5041	7	132	幌別西小学校の通学区域
緑陽中学校 昭和58年4月1日開校	富岸町 1-11-1	85-5409	12	383	青葉小学校、富岸小学校の 通学区域

VII 社会教育施設一覧

施設名称	所在地	内 容	指定管理者
市民会館 昭和 58 年 6 月開館	富士町 7 丁目 33 番地 1	大ホール、中ホール、大会議室、小会議室、和室、サークル活動室、木工室、視聴覚室、調理室、婦人サークル活動室、児童室、展示ホール	一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団
郷土資料館(文化伝承館) 昭和 56 年 9 月開館 (平成 8 年 3 月 29 日開館)	片倉町 6 丁目 27 番地 2	展示室、体験学習室	
登別市民プール 昭和 50 年 2 月開館 平成 16 年 6 月建替開館	幸町 1 丁目 5 番地 2	公認競泳 25m プール、流水・歩行プール、多目的プール、リラクゼーションプール、トレーニングルーム研修室、会議室、キッズルーム、休憩室、ギャラリー、ロッカールーム、シャワールーム、身障者更衣室	一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団
ネイチャーセンター ふおれすと鉱山 平成 14 年 4 月開館	鉱山町 8 番地 3	自然情報展示、森の図書館、食堂、木工室、宿泊室、研修室、ロビー、ネイチャーホール、浴室	NPO 法人登別自然活動支援組織 モモンガくらぶ
のぼりべつ文化交流館 カント・レラ 平成 19 年 6 月開館	登別温泉町 123 番地 1	情報スペース、学習室、保管室、体験学習室、収納展示室、準備室、図書室、研修室、展示室、調理室、談話室、サークル活動室、体育館	
鷺別公民館 昭和 38 年 12 月開館 昭和 60 年 5 月建替開館	鷺別町 3 丁目 3 番地 4	ホール、1 号会議室、2 号会議室、1 号和室、2 号和室、3 号和室、研修室	一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団
登別公民館 昭和 44 年 5 月開館	登別東町 2 丁目 21 番地 1	1 号室、2 号室、3 号室	
登別温泉公民館 昭和 44 年 8 月開館	登別温泉町 17 番地	ホール、1 号和室、2 号和室 児童室	
総合体育館 昭和 49 年 10 月開館	若山町 2 丁目 26 番地 1	競技場、多目的ルーム、会議室	一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団
登別市青少年会館 昭和 44 年 5 月開館	中央町 5 丁目 21 番地 12	体育室、研修室、和室	

施設名称	所在地	内容	指定管理者
富岸青少年会館 昭和54年4月開館	富岸町2丁目23番地15	体育室、研修室	
岡志別の森運動公園 平成9年4月開園	千歳町97番地外	野球場、テニスコート、パークゴルフ場	北海道曹達株式会社幌別事業所
陸上競技場 昭和43年8月開設	千歳町3丁目1番地5	400mトラック	一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団